

レンリソウ *Lathyrus quinquenervius* (Miq.) Litv.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 80 cm になる。茎は 3 稜形で 2 枚の翼がある。小葉は 2~6 枚、線状狭楕円形で尖り、長さ 4~10 cm、先端に分岐しない巻きひげがある。花期は 5~6 月。花は紫色で、長さ 1.5~2 cm、総状花序に 4~8 個つく。豆果は広線形で長さ 3~4.5 cm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（シベリア東部、アムール、ウスリー）に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿った草地に生育する。

4. 生育状況

富士山麓と天竜川流域などに産地は限られている。生育地での個体数は少ない。西部の産地では、堤防の草地に小群落が点在し生育している。

5. 減少の主要因と脅威

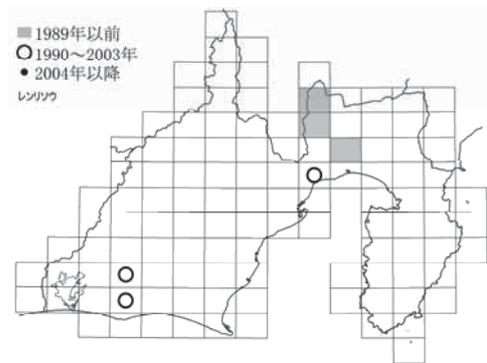
生育地の堤防の改修 (13) や管理不足 (53) による草地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保護と定期的な草刈りなどによる草地の保全が必要である。
(内藤宇佐彦)



磐田市 1999年5月15日 内藤宇佐彦



クサフジ *Vicia cracca* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。茎はつる状で長さ 150 cm に達する。葉は長さ 8~15 cm で、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉は 18~24 枚。狭卵形で長さ 15~30 mm。花期は 5~9 月。花は青紫色で長さ 10~12 mm。総状花序に一方に向けて密につく。豆果は長さ 2~3 cm、種子は長さ約 3 mm で 5 個ほど入っている。類似のツルフジバカマの小葉は 10~16 枚と少なく、花は紅紫色である。

2. 分布

国外では北半球の冷温帯から亜寒帯域に、国内では南千島、北海道、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯~亜寒帯の日当たりのよい草原や林縁に生育する。

4. 生育状況

富士山西麓の朝霧高原などに生育するが、個体数は少なく、今回の調査では確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境である草原の減少 (16) と草原の植生遷移 (54) が減少の主要因である。

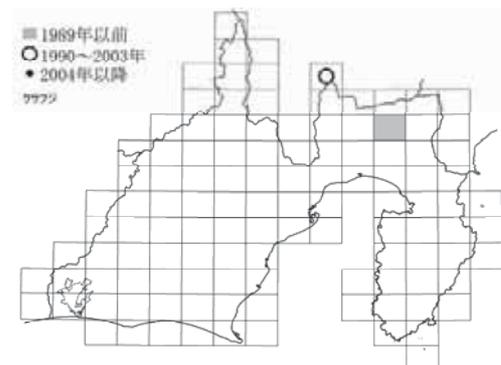
6. 保護対策

草原の維持管理によって生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



岐阜県 2015年8月23日 室伏幸一



ヒナノカンザシ *Salomonina ciliata* (L.) DC.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件①②) 変更なし

ヒメハギ科 Polygalaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ6~25 cm。茎は細く直立し、葉はまばらに互生し、茎の基部につくものを除いて狭楕円~狭卵形、長さ3~8 mm。花期は8~9月。花は紫色を帯び、長さ1~2 mmで、細長い穂状花序につく。蒴果は扁平で腎形、径2 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部、台湾、中国、東南アジア、ミャンマー、ネパール、インド、スリランカ、ニューギニア、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺や小笠山周辺の湿地に広く生育していた。生育地である湿地の消滅で減少している。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

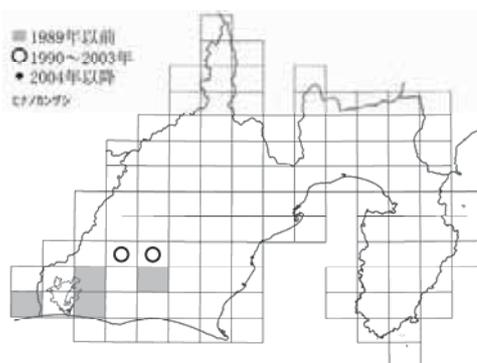
丘陵地の開発による生育地の消失(23)が主要因である。

6. 保護対策

湿地を周辺部(湧水源)まで含めて保護することや、植生の遷移を抑制する適切な管理が重要である。(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年8月31日 内藤宇佐彦



キンロバイ *Dasiphora fruticosa* (L.) Rydb. var. *fruticosa*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件①②③) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ30~100 cm。幹はよく分枝して広がる。葉は3小葉または5小葉。小葉は全縁の楕円形で長さ1~2 cm、若い時には両面に長毛がある。葉柄は細く有毛で長さ5~20 mm。花期は6~8月。萼片は三角状卵形で長さ5~7 mm。花は径2~2.5 cm。花弁は円形の全縁で黄色。花弁が白色のハクロバイまたはギンロバイも同じ扱いである。

2. 分布

国外ではサハリン、千島、朝鮮半島、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の蛇紋岩、石灰岩地で日当たりがよく、他の木本類の侵入が困難な岩礫地に生育する。

4. 生育状況

産地が局所的である。産量はそれほど多くない。生育範囲は狭い。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移(54)と園芸目的の採取(41)が脅威である。

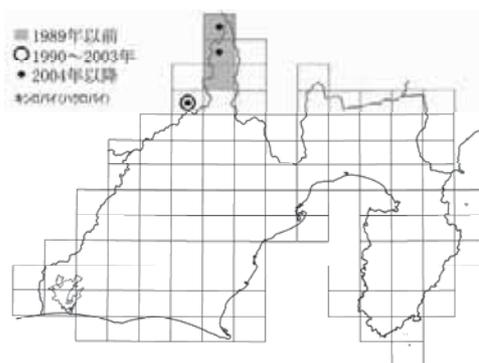
6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。

(宮崎一夫)



山梨県 2012年8月4日 山崎由晴



ウラジロキンバイ *Potentilla nivea* L. var. *camtschatica* Cham. et Schltdl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ7~20 cm。根は太い。根出葉は束生し3出複葉で、表面は緑色で裏面は白綿毛が密生して白色である。小葉は広卵形で長さ10~35 mm、鋸歯がある。花期は7~8月。花序は1~5個花を集散状につける。花柄は細く長さ2~5 cm、白綿毛に覆われる。萼片は広披針形で長さ3~5 mm。花は径1.5~2 cm。花弁は5個あり黄色。近似種のミヤマキンバイは葉の両面が緑色である。

2. 分布

国外では北半球の亜寒帯と高山帯に、国内では北海道、本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩上や岩礫の多い寒冷な風衝地に生育する。

4. 生育状況

2メッシュで生育している。産地は南アルプスの北部に多い。株数は少なく点在する。

5. 減少の主要因と脅威

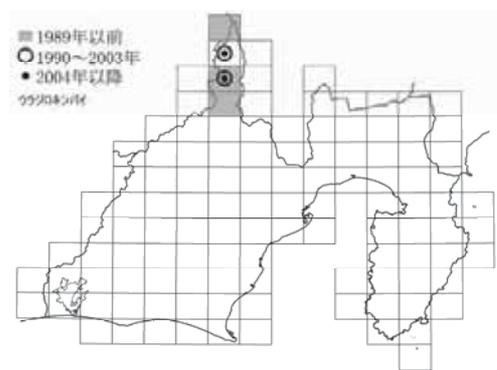
植生遷移(54)や岩塊の崩壊(55)が主要因である。登山者による踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

登山道を指定して踏圧の脅威をなくす。(宮崎一夫)



静岡市 2016年7月29日 宮崎一夫



ミヤマワレモコウ *Sanguisorba longifolia* Bertol.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード7

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ50~100 cm。ワレモコウとナガボノワレモコウとの中間的な形態の植物である。ワレモコウより花序が長いがナガボノワレモコウのように垂れ下らない。また雄蕊は萼より少し長いがナガボノワレモコウほどではない。花期は8~10月。花序は暗赤褐色。

2004年版では湖西市の産地のものはナガボノワレモコウとされたが、その後の研究で本種とされた。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道(南部)、本州(中部)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

湖西市に生育する。個体数は少ない。最近ため池の改修で激減した。

5. 減少の主要因と脅威

水田の再整備(15)やため池の改修(12)で生育地が消失する危険性が高い。植生の遷移進行(54)で草地環境が悪化している。

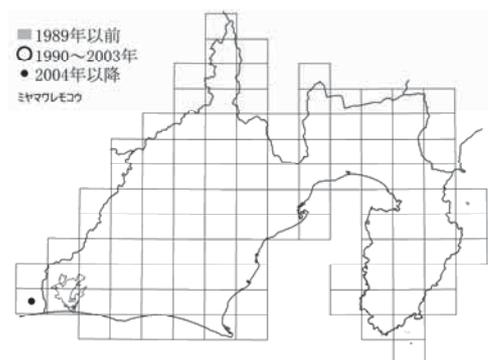
6. 保護対策

生育地の保護と草刈りなど草地の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2014年9月27日 内藤宇佐彦



ハコネグミ *Elaeagnus matsunoana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

グミ科 Elaeagnaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小高木。新しい枝は、葉柄とともに淡黄褐色の鱗片に覆われ、さらに同色の星状毛を散生する。葉は薄く、楕円形で、長さ6.5~9 cm。表面は黄緑色ないし灰緑色で光沢がなく、秋まで残る淡黄褐色の星状毛が多い。裏面は銀色の鱗片を薄くしき、淡黄褐色の星状毛を散生する。花期は5~6月。花は葉腋に1個、花弁はなく、萼筒は長さ7.5~8 mmと大きい。

2. 分布

日本固有種で、本州（山梨県、神奈川県、静岡県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯~冷温帯の落葉広葉樹林内や草地。

4. 生育状況

箱根外輪山と富士山の周辺に広く生育し、個体数はまだ比較的多い。

5. 減少の主要因と脅威

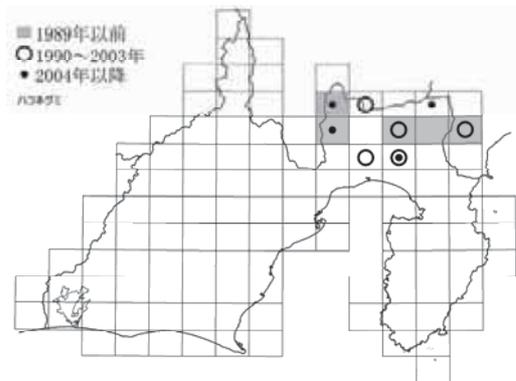
土地開発(23)や広葉樹林のスギ、ヒノキ林化(71)、植生の遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

主要な生育環境である落葉広葉樹林を保全する必要がある。
(湯浅保雄)



富士宮市 2011年5月14日 内藤宇佐彦



クロツバラ *Rhamnus davurica* Pall. var. *nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木または小高木。高さ4~5 m。長枝の先は刺となる。葉は対生またはやや対生し、狭長楕円形または線状長楕円形。長さ5~12 cm、幅2~4 cm。雌雄異株。花期は5~6月。花は新しい枝の下部の葉腋につく。花は黄緑色で径4~5 mm。4数性。雌花の花冠は発達が悪い。果実は球形で径8 mmほど。熟すと黒色となる。ふつう2個の分核がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州（中北部）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の山地や高原。

4. 生育状況

東部の比較的広い範囲に分布するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の開発(23)と人工林化(71)及び高原の減少(16)が減少の主要因である。

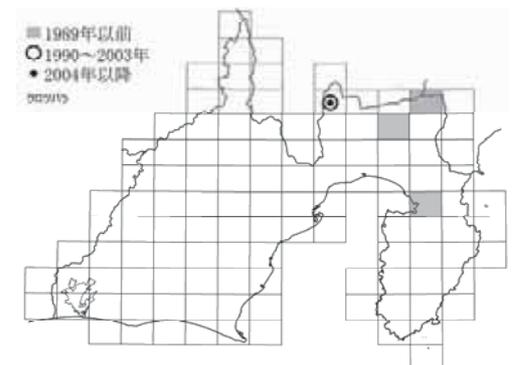
6. 保護対策

生育草原の維持管理と広葉樹林の保存。

(湯浅保雄)



富士宮市 2015年7月11日 湯浅保雄



ジゾウカンバ *Betula globispica* Shirai

(=イヌブシ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

カバノキ科 Betulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉高木。高さ10~15 m。樹皮は灰白色で表皮が薄く横にはがれる。葉は長枝に互生し、短枝に2枚ずつつく。葉身は広卵形、長さ4~7 cm。先端は短鋭尖形、基部は円形から浅心形。裏面葉脈上に白色長毛が残る。花期は5月頃。前年の秋に長枝の先端付近に形成されていた雄花序は、開葉とともに開花し、雌花序は新しい短い枝の先につく。果穂は10月頃に熟し、球形から楕円形で長さ2.5~4 cm。

2. 分布

日本固有種で、本州(栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、山梨県、長野県)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地で日当たりのよい尾根などに生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時からほとんど変化していない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の森林所有者に、その存在と貴重性を周知させること。

(湯浅保雄)



静岡市 2004年10月27日 加藤 徹



シラヒゲソウ *Parnassia foliosa* Hook. f. et Thoms. var. *foliosa*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ニシキギ科 Celastraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。根出葉は広卵形で長さ1.5~4 cm、長い柄がある。数個の無柄の茎葉が段になってつく。花期は8~9月。花は径2~2.5 cm、白色で花弁の縁が糸状に深く切れ込む。仮雄蕊は3裂して、先端に腺体がある。蒴果は長さ6~7 mm。

2. 分布

国外では中国西部、インド北部に、国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

山地の溪流の岩壁に生育する。

4. 生育状況

愛鷹山、箱根外輪山、安倍大滝などに生育する。生育地の個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が減少の主要因である。生育地の環境も悪化している。

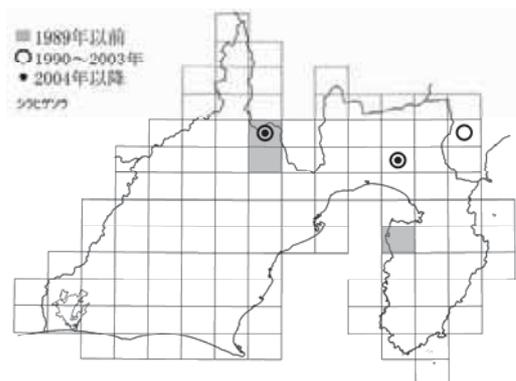
6. 保護対策

生育地の水源部の保全と園芸採取を防ぐ対策が必要である。

(西口紀雄)



長泉町 2013年9月22日 内藤宇佐彦



ノウルシ *Euphorbia adenochlora* C. Morren et Decne.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。切ると白い乳液を出す。茎頂に 5 枚の葉をつけ、各葉腋から 5 本の枝を出す。花期は 4~5 月。花序の下の苞葉が黄色く色づき、花弁のように見える。腺体は円頭で黄色に色づく。蒴果は球状で長さ約 5 mm 幅約 7 mm。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地や河岸の湿地に生育する。

4. 生育状況

東部の浮島沼では個体数は多い。西部では少ない。地下茎により増殖し群生する。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の植生遷移 (54)、開発や土地造成 (23) により多くの生育地が消失した。

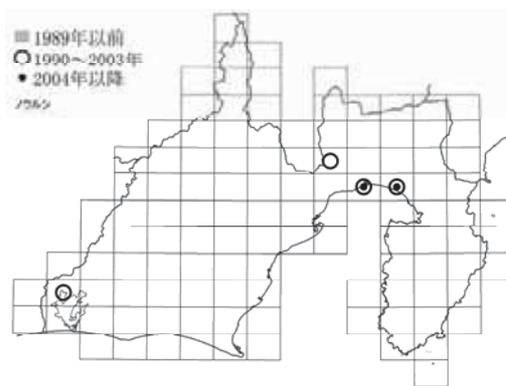
6. 保護対策

東部の生育地では、一部の地域が自治体により保全されている。現存する湿地の保護が必要である。ヨシなどの高茎草本の草刈りなどの管理も必要である。

(西口紀雄)



富士市 2005年4月30日 宮崎一夫



コマイワヤナギ *Salix rupifraga* Koidz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヤナギ科 Salicaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。雌雄異株。当年性の枝はふつう白い絹毛状綿毛で密生する。葉は長楕円形で長さ 6~10 cm、幅 2~3 cm。成葉の裏面は灰青色で白色の伏長軟毛がある。花期は 5 月。雄花穂は 2.5~4.5 cm。雌花穂は長さ 1.7~2.5 cm で、花序軸が見えないほど密に花をつける。類似のシバヤナギの葉裏は、はじめ白絹毛があるが後に無毛、雄花穂は 3~9 cm。雌花穂は 4 cm で花序軸が見える。本種との誤認も多いと思われる。標本があれば検証する必要がある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (群馬県、山梨県、長野県、静岡県) に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の林縁や岩上、河川沿いや道沿いの崖地など。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では、東部の愛鷹山、天子山地、中部の安倍川上流、大井川上流などで記録されているが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

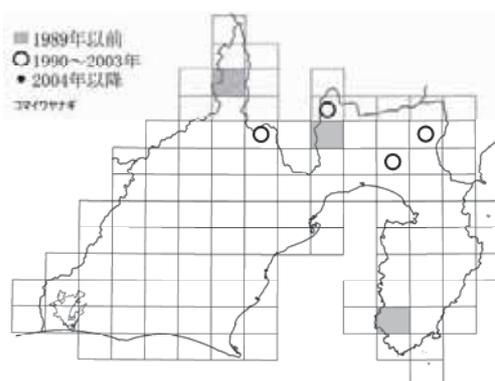
山林伐採 (11)、河川整備 (13)、道路工事 (24) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地を破壊しないような対策を立てること。(湯浅保雄)



長野県 2019年6月18日 室伏幸一



サクラスミレ *Viola hirtipes* S. Moore

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ8~15 cm、無茎種。地下茎はない。葉身は表面が暗紫色で裏面はしばしば紫色を帯び、長楕円形で長さ3~6 cm、果期の葉は大きく、長さ5~15 cmになる。葉柄と花柄に開出毛が目立つ。花期は4~5月。花は淡紅紫色、径約2.5 cm。花弁の長さ15~20 mm。側弁の基部は有毛。

葉脈に紅紫褐色の斑の入るのは品種チシオスミレという。

2. 分布

国外では中国東北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の草地に生育する。

4. 生育状況

過去には県内に広く分布していたが、今回の調査では東部と伊豆の5ヶ所ではしか確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

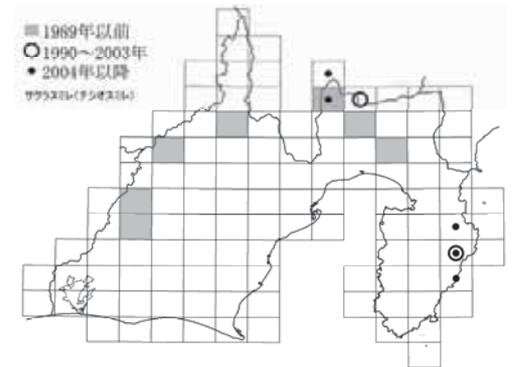
草原の消失(16)による生育地の減少と園芸採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育している草地を維持管理すること。(湯浅保雄)



富士宮市 2015年5月17日 宮崎一夫



キスミレ *Viola orientalis* (Maxim.) W. Becker

(=イチゲキスミレ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。地下茎は短くて直立する。根出葉は1~2個あり心形で長さ2.5~4 cm。茎葉は上部に2個が接近してつく。花期は3~5月。スミレ属の花弁は上弁2、側弁2、唇弁1の5枚あり、本種は黄色で唇弁が小さく、距がある。花弁は長さ12~15 mm。側弁は基部に毛束がある。柱頭の先はふくれ両側に毛がある。近縁種のオオバキスミレは萼片の付属体が目立たない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシアに、国内では本州(山梨県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖温帯の丘陵や高原で疎林内やササ原、草地に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。東部と中部に現存するが、減少した。産量は多い地点もあるが、概して少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の消失(16)と植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

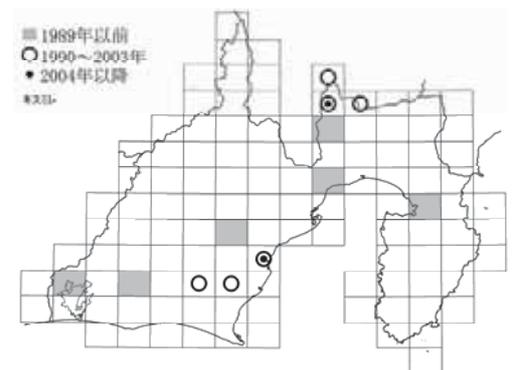
6. 保護対策

植生遷移を抑制する為に野焼きも有効である。

(宮崎一夫)



富士宮市 2008年5月30日 宮崎一夫



アサマフウロ *Geranium soboliferum* Kom. var. *hakusanense* (Matsum.) Kitag.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

フウソウ科 Geraniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。茎と葉柄に下向伏毛がある。葉は掌状に深く 5 深裂して、裂片は更に 3 裂して、小片は細まる。葉表に微毛がある。托葉は草質で合生する。花期は 8~9 月。花は直径 3~4 cm、濃赤紫色。花弁に濃色の腋が目立つ。花柄に下向圧伏毛がある。雌蕊は長さ 10 mm、5 深裂する。小花柄は果時にも直立する。近縁種のイヨフウロは花柄が果時に水平となり、ハクサンフウロは垂れる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（関東地方、中部地方）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

高原の水湿地に生える。

4. 生育状況

産地は東部に局限している。産量は群生していたが減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

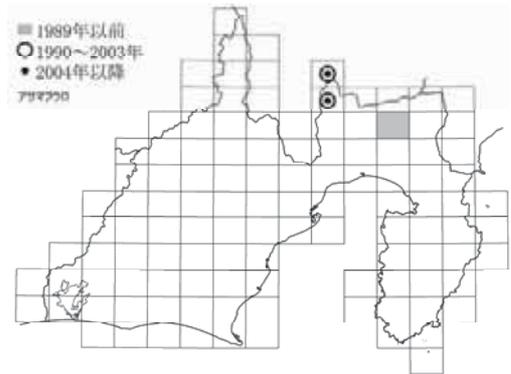
乾燥化が植生遷移 (54) を促進して、生育を阻害している。観察者や撮影者の踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

木道を敷設するなどして踏圧を回避する。 (宮崎一夫)



富士宮市 2013年9月14日 宮崎一夫



トダイアカバナ *Epilobium platystigmatosum* C. B. Rob.

(=サイヨウアカバナ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 3, 4

アカバナ科 Onagraceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~70 cm。多く枝を分け、全面に曲がった毛がある。葉は線~披針形で縁に 3~8 対の細鋸歯がある。長さ 1~4.5 cm、幅 1~5 mm。花期は 8~9 月、花弁は淡紅色か白色、長さ 3~5 mm。柱頭は太い棍棒状あるいは頭状。子房に腺毛はない。類似のホソバアカバナはほとんど枝分かれせず、葉は全縁。また子房に腺毛がある。

2. 分布

国外では韓国、台湾、中国南部、フィリピンに、国内では本州（神奈川県以西）、四国、九州（宮崎県）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

温帯の湿った所や砂質の裸地に生える。

4. 生育状況

場所によっては、相当の本数が高密度で生育しているが、他の植物の繁茂により徐々に減少している。最近、県内に生育することが明らかになった。

5. 減少の主要因と脅威

道路工事 (24)、河川改修工事 (13)、開発工事 (23)、植生遷移 (54) が減少の主要因である。

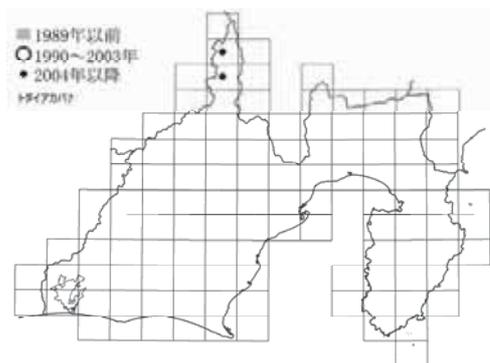
6. 保護対策

生育地では、現環境を維持するようにすること。

(湯浅保雄)



静岡市 2016年8月26日 湯浅保雄



チョウセンナニワズ *Daphne koreana* Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ジンチョウゲ科 Thymelaeaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ0.5~1.5 m。茎は分枝し汚灰茶色。葉は帯黄緑色でやや薄く倒披針形で長さ5~13 cm、互生し晩秋に落葉して春に展葉する。側脈は7~9対。花期は3~5月。花は淡黄緑色で2~10個が集まって葉腋につく。液果は楕円形で長さ8 mm、5~7月に赤熟する。近縁種のオニシバリは葉が秋に展葉して夏に落葉し、側脈が不明瞭である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア沿海州に、国内では本州（南アルプス~秩父武甲山）に分布する。県内では中部（南アルプス）、東部（富士山）に分布する。

3. 生育環境

温帯深山の石灰岩地帯の岩崖地や岩礫地に生育する。

4. 生育状況

産地、産量は少ない。開花株も少なく生育も悪い。特異な地質に生育する植物なので、開発の影響を受けやすい。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11)、採石 (17)、林道拡幅工事 (24) が主要因である。岩塊や礫地の自然崩壊 (55) も脅威である。

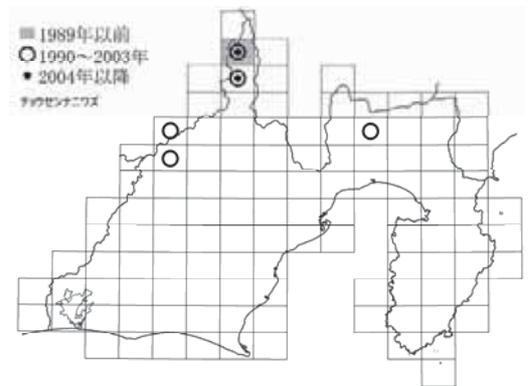
6. 保護対策

石灰岩地の森林伐採や林道工事に際しては注意が必要である。また石灰岩を採石しないで保全する。

(宮崎一夫)



静岡市 2018年8月25日 湯浅保雄



エゾハタザオ *Catolobus pendula* (L.) Al-Shehbaz

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

越年草。高さ20~120 cm。茎は直立して上部で枝を分ける。葉は長楕円状披針形で長さ3~12 cm、基部は茎をやや抱く。花期は6~8月。白色の花をつける。花弁は長さ3.5~5 mm。総状花序は果時にまばらになり、長角果は線形で長さ4.5~10 cm、細長く垂れ下がる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシア、ヨーロッパに、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林縁や林内に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区に生育する。生育地は限られている。個体数も少ない。温帯性の植物であり、隣県の長野県では少ないものではない。

5. 減少の主要因と脅威

道路建設や整備 (24) で自生地の消失が懸念される。

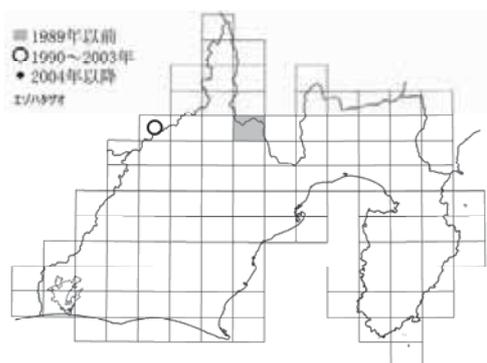
6. 保護対策

産地の限られた植物であり、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年8月16日 内藤宇佐彦



クモマナズナ *Draba sakuraii* Makino var. *nipponica* (Makino) Takeda

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ9~15 cm。茎は株状。根出葉はへら状線形から倒披針形、深い鋸歯縁。表面に光沢があり、両面には星状毛が生えている。長さ5~17 mm、幅2~8 mm。花期は6~7月。花弁は白色で長さ約6 mm。先は凹形。短角果は長さ6~10 mm。広線形でややねじれる。種子は長さ約1.5 mmで、短い尾状の突起がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは南限の自生地。

3. 生育環境

高山の岩上。

4. 生育状況

南アルプスに生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の変化 (71) が減少の主要因と考えられる。

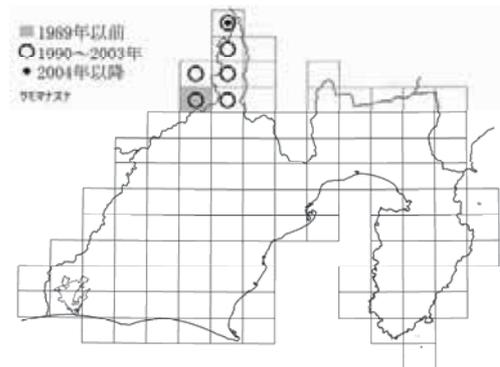
6. 保護対策

登山路以外には立ち入らないようにし、生育環境の保護と踏みつけを防ぐこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2005年7月17日 加藤 徹



ミヤマツチトリモチ *Balanophora nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ツチトリモチ科 Balanophoraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。全寄生植物。高さ5~15 cm。地下部分は寄主の根に接合してこぶ状球形に肥大する。花期は7~8月。雌雄異株で雄株は発見されていない。成長して大きくなったこぶから地上に花茎を出す。花穂は長楕円体で表面は粒状の倒卵円体で覆われ、その下に雌花がある。橙赤~橙黄色で色の変化が多い。近縁種のツチトリモチは県内では確認されていないが、ハイノキ科の樹木を寄主として花穂は同形であるが赤色である。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯の落葉樹林下でコミネカエデなどを寄主とする。

4. 生育状況

産地は毎年発生するとは限らず、年による消長がある。産地では数株が散生することが多いが、数十株が群生していることもある。

5. 減少の主要因と脅威

落葉樹林の伐採 (11) が主要因である。針葉樹林が被陰となり寄主の生育が悪いこともある。

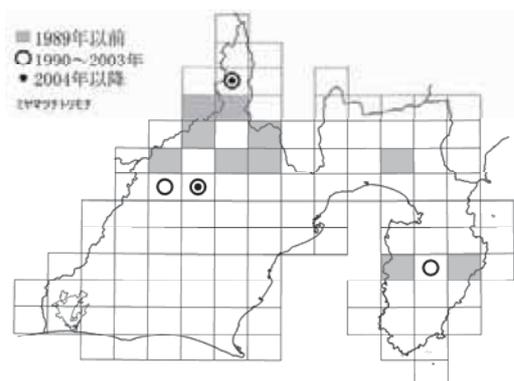
6. 保護対策

寄主である落葉樹林を伐採しない。

(宮崎一夫)



静岡市 2017年8月19日 加藤 徹



サイコクヌカボ *Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag.

var. *nikaii* (Makino) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 9, 18

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~80 cm。ヤナギヌカボに似る。托葉鞘の縁毛が長く托葉鞘とほぼ同長である。花期は 9~10 月。花序はやや長く先は垂れ、花がいつそうまばらにつく。瘦果は少し大きく、長さ 1.7~2.1 mm である。本変種は 2004 年度版ではヤナギヌカボに含めていたが、環境省版との整合性を図り、湖西市のものはサイコクヌカボとした。

2. 分布

国外では中国東部に、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地のため池の畔に生育する。

4. 生育状況

湖西市に生育する。最近では生育が確認できない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修 (12) や他の植物 (帰化種も含めて) との競合 (56) が指摘される。

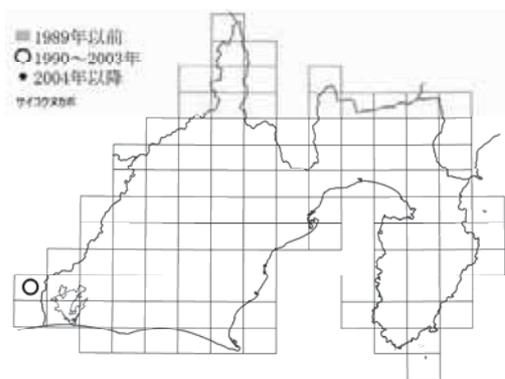
6. 保護対策

生育地の競合する帰化植物などを除去することなど、生育環境の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 1996年9月21日 内藤宇佐彦



ヌカボタデ *Persicaria taquetii* (H. Lév.) Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 10~60 cm。茎の下部は地を這って多くの枝を分かち、上部は直立する。葉は無柄で質薄く、長披針形、両端は細まり、長さ 2~8 cm、幅 3~12 mm。両面に伏毛があり、裏面には腺点はない。花期は 7~11 月。枝先に痩せた偽総状花序を出し、まばらに紅色を帯びた小さな花をつける。花弁はなく、萼は 5 深裂する。

2. 分布

国外では中国東部、韓国（済州島）に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田などの多湿地や沼地に生育する。

4. 生育状況

現在、静岡市麻機遊水地など産地は限られるが、水田で除草剤散布をやめると、埋土種子から大発生することがある。

5. 減少の主要因と脅威

湿地や沼沢地の埋め立て (15, 12) と、水田での除草剤使用 (32) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境の湿地の保全と、水田での除草剤散布を止めること。

(湯浅保雄)



静岡市 2007年10月28日 栗山由佳子



イシモチソウ *Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

モウセンゴケ科 Droseraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。食虫植物。高さ10~30 cm。三日月形の葉をつけ、幅4~6 mm、葉の表面と縁に腺毛がある。葉柄は長さ10~15 mm。花期は5~6月。総状花序を出し、2~10花をつける。花弁は白色で長さ6~8 mm。蒴果はやや球形で長さ2.5 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾に、国内では本州（関東以西）、四国、九州、琉球（西表島）に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

かつては西部の西南部の丘陵地に豊富に生育していたが、丘陵地の開発により激減した。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

住宅地・工場・農地などの土地造成 (23) による生育地の消失が激減の主要因である。

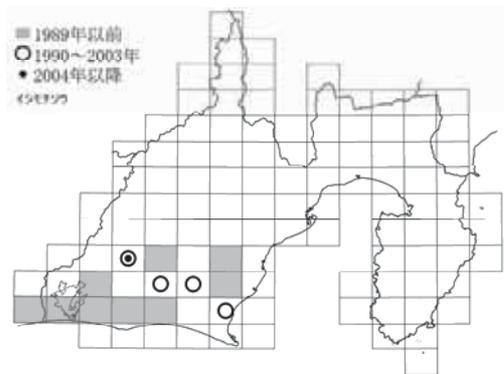
6. 保護対策

現存する生育地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年5月25日 内藤宇佐彦



オオピランジ *Silene keiskei* Miq. var. *keiskei*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~50 cm。茎は立ち上がるか崖から垂れ下がる。葉は無柄で披針形、長さ2~5 cmで縁毛がある。花期は7~9月。花柄は長さ2~4.5 cm。花は2出集散花序状にまばらにつけ、萼は長卵形で長さ1~1.4 cm。花冠は径2~3.5 cm。花弁は紅紫色で2浅裂する。蒴果は狭楕円形で長さ約1 cm。近縁種のタカネピランジは花が単生する。

2. 分布

日本固有変種で、本州（中部地方）に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の岩場や崩壊地に生育する。

4. 生育状況

産地は中部の山地に限られている。産量は少ない。生育地は危険な場所であるが、採取により手近な範囲にはほとんど生えていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。また生育地の自然崩壊 (55) も脅威である。

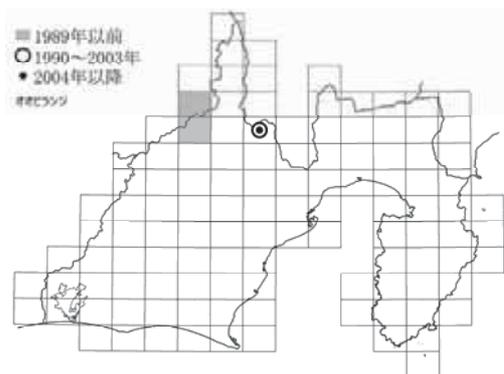
6. 保護対策

登山道を指定することによって、生育地に入らないようにする。

(宮崎一夫)



静岡市 2003年9月13日 加藤 徹



シコタンハコベ *Stellaria ruscifolia* Willd. ex Schldl.

(=ネムロハコベ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ3~15 cm。茎は叢生する。葉は無柄の長卵形で長さ1~3 cm、先は鋭尖しやや厚く緑白色で小油点がある。花期は7~8月。萼片は広披針形で長さ4~8 mm。花冠は3~6 cmの長柄あり白色で径約1.5 cm。花弁は萼の1.5~2倍長で2深裂する。花柱3~4個。近縁種のカンチャチハコベは花の径が約7 mm。

2. 分布

国外ではロシア(千島、サハリン、カムチャツカ半島)に、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布し、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山の斜面下部付近で勾配の緩い岩礫地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに局限し、産量は斑状に群生している。

5. 減少の主要因と脅威

雪崩などによる岩礫の移動(55)と登山者の踏圧(51)が脅威である。

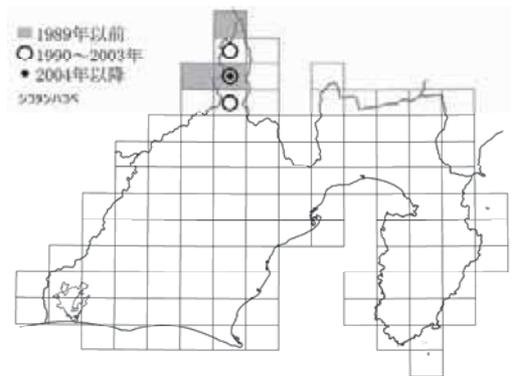
6. 保護対策

踏圧を軽減するために生育場所を避けて登山道を迂回整備する。

(宮崎一夫)



静岡市 2016年7月29日 宮崎一夫



エンシュウツリフネソウ *Impatiens hypophylla* Makino

var. *microhypophylla* (Nakai) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ツリフネソウ科 Balsaminaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80 cm。葉は披針形、互生。尖った歯牙がある。花序は葉のうら側に平行して先の方が垂れる。花はツリフネソウ形で淡紫色に暗紫点がある。長さ15~20 mm、前方に曲がる距がある。距は巻かない。花は7~9月。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部)、九州(大分県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の溪流沿いや湿潤な林内の林道沿いに生育する。

4. 生育状況

水窪町の北部山地に点在し、群生地もある。

5. 減少の主要因と脅威

この仲間の減少の要因は、山林伐採(11)、河川開発(13)、林道や登山道の整備(24)などである。

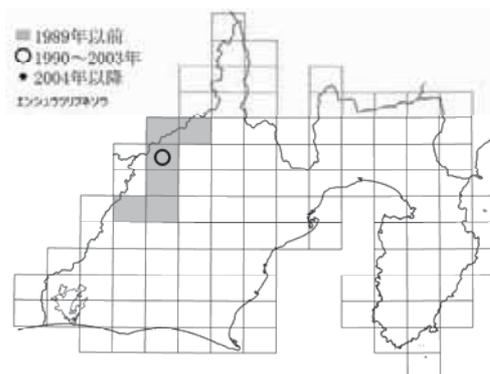
6. 保護対策

生育地での山林伐採や林道の整備は慎重に行いたい。

(西口紀雄)



浜松市 2003年9月28日 内藤宇佐彦



オオサクラソウ *Primula jesoana* Miq. var. *jesoana*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~50 cm。根茎は短く横に這う。葉は円形で径 5~12 cm、縁は 7~9 中裂する。花期は 6~7 月。花柄は 1~1.2 cm で細毛がある。萼は筒形で長さ 6~10 mm。花は濃紅紫色で径 2 cm、4~8 個を 1~2 段の輪状につける。近縁種のイワザクラは葉径が 1.5~7 cm である。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布し、南限自生地である。

3. 生育環境

亜高山帯上位の谷筋の湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は限定的であり、ごく一部でのみ確認されている。産量はそれほど多くはない。

5. 減少の主要因と脅威

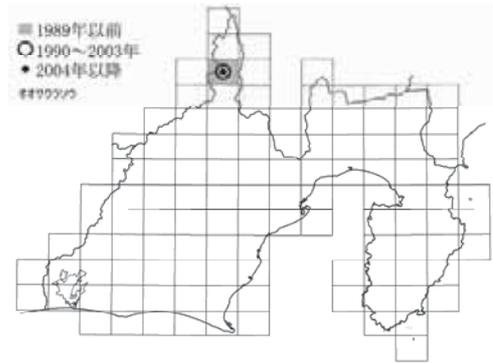
登山者による踏圧 (51) が主要因である。林道整備、森林環境の遷移及び伐採 (11)、園芸採取 (41) による減少、シカの踏み荒らしなど (71) の影響も懸念される。

6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」。静岡市などにより防鹿柵が設置されているほか、環境省新宿御苑内に種子が保存され、保護増殖が図られている。登山道を木道にして踏圧の防止が望まれる。(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2017年7月22日 湯浅保雄



コイワザクラ *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *reinii*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 5~10 cm。葉は数個を束生し、葉身は円形で径 3~7 cm、基部は心形で縁は不規則に浅裂し、鋸歯は鈍く両面に軟毛がある。花期は 5 月。花は 1~5 個を散形につける。萼は長さ 6~8 mm、5 中裂して先端に硬点がある。花は紫紅色。花冠は高杯形で 5 中裂して、径 1.8~2.5 cm。蒴果は長楕円形で 0.7~1.2 cm。近縁種のクモイコザクラは、葉が浅裂して鋸歯が尖る。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方西南部、中部地方南部、紀伊半島)に分布する。県内では中部、東部に分布する。

3. 生育環境

温帯上部に生育する。山地の少し明るい川岸や滝の付近で、飛沫を浴びるような湿った岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は東部と南アルプスに点在する。産量が多いが開花株は少ない。個体の多くは採取困難な場所に生育している。

5. 減少の主要因と脅威

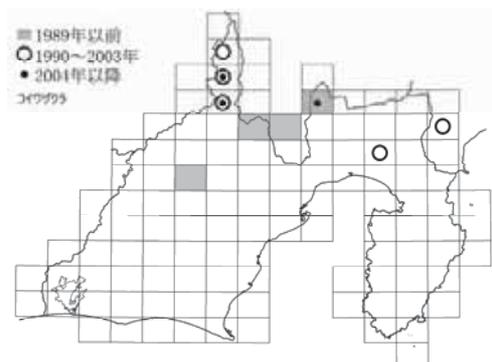
園芸採取 (41) が主要因である。岩地の崩壊 (55) による消失も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報を公表する際には、慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2017年5月19日 湯浅保雄



クモイコザクラ *Primula reinii* Franch. et Sav. var. *kitadakensis* (H. Hara) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~10 cm。葉は数個を束生する。葉身は腎円形で径1.5~4 cm、浅裂よりもやや深く1/3ほど裂けて鋸歯が尖る。花期は6~7月。萼は5中裂して裂片は披針形で長さ5~8 mm。花冠は紅紫色で花喉部は淡橙黄色、高杯形で長さ1.8~2.5 cm、筒部は長さ8~10 mm。蒴果は長楕円形で長さ7~12 mm。近縁種のコイワザクラは葉が深裂して鋸歯は鈍い。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部地方)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の日当たりがよく、かつ谷から雲霧によく覆われる、岩塊や岩崖の岩隙に生育する。

4. 生育状況

産地は中部の山岳にあり少ない。産量はやや多い。樹木による被陰でやや生育不良な場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

岩塊の崩壊や周囲の樹林による被陰(71)が脅威である。

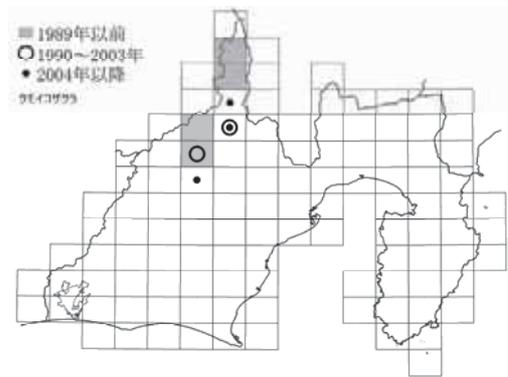
6. 保護対策

生育地を被陰している樹木を伐採して光条件を改善する。

(宮崎一夫)



静岡市 2011年6月4日 山崎由晴



シナノコザクラ *Primula tosaensis* Yatabe var. *brachycarpa* (H. Hara) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

サクラソウ科 Primulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。葉柄と花茎に開出軟毛がある。葉は表面が無毛で、裏面は脈上に軟毛がある。萼は5中裂。花期は4~5月。花は紫紅色。蒴果は長楕円形又は曲円柱形で長さ5~13 mm、萼の1~1.5倍の長さである。近縁種のイワザクラは、蒴果が直円柱形で長さ15~25 mmある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方、中部地方)に分布する。県内では西部と中部に分布する。

3. 生育環境

山地に生育する。川岸や垂れ落ちる水しぶきが当たる、湿ったややうす暗い垂直な岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区などにあり少ない。産量はやや多い。開花株は減少の一途であり、個体の多くは採取困難な場所に生育している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が主要因である。岩地の崩壊(71)による消失も脅威である。

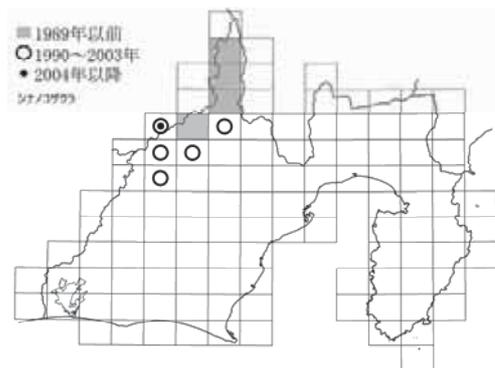
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報を公表する際には、慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市天竜区 2013年5月4日 宮崎一夫



カインササラドウダン *Enkianthus sikokianus* (Palib.) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1.5~5 m。葉柄は3~10 mm。葉は枝先に集まって互生する。葉身は楕円形で長さ3~7 cm、縁に、先に毛がある細鋸歯がある。花期は5月。花序は長さ5~10 cm、総状で枝先から下垂する。花柄は長さ0.5~1.5 cm。花は8~20個つき、花柱は無毛。花冠裂片は全縁で反曲しない。果柄は湾曲して、果実は上向きにつく。近縁種のサラドウダンは花序の長さが2~5 cmである。

2. 分布

日本固有種で、本州(東海地方、紀伊半島)、四国に分布する。県内では西部に分布し、東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地から低山の岩地や岩礫地の林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に偏在している。産量はやや多い。しかし植林による被陰の為に開花株が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

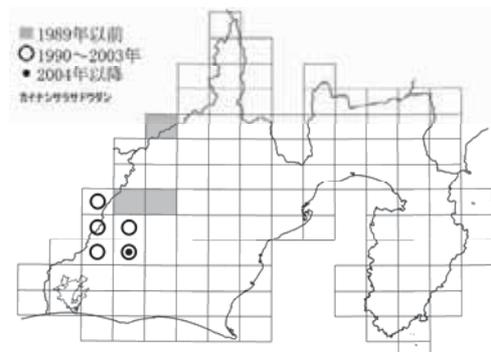
園芸目的の採取(41)が主要因である。周囲の樹林による被陰(71)も脅威である。

6. 保護対策

生育地を被陰している樹木を伐開して光条件を改善する。(宮崎一夫)



浜松市 2019年5月22日 内藤宇佐彦



キョウマルシャクナゲ *Rhododendron japonoheptamerum* Kitam.

var. *kyomaruense* (T. Yamaz.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑低木。高さ2~6 m。葉柄は長さ25~35 mm。若葉の表面ははじめ黄褐色の伏毛があって夏まで残り、下面は圧伏した枝分かれしない綿毛がうすく覆う。花冠は蕾でピンク色、開花時は淡紅色からトキ色となる。花柄25~35 mm、花冠は先が5裂し径4~5 cm、雄蕊10個。花柱は雄蕊よりも短い。近似種のホンシャクナゲは葉表の毛が早落し、アズマシャクナゲの葉裏の綿毛は枝分かれする。

2. 分布

日本固有変種で、本州(長野県南部、静岡県北部)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯下部の深山に生育する。

4. 生育状況

産地は天竜区に局限している。産量は少ない。林冠の日陰により生育が悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

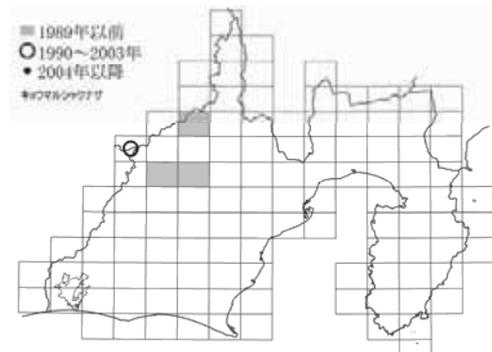
遷移の進行(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

林冠を覆っている樹木を伐開することにより、被陰を回避して光条件を改善する。(宮崎一夫)



浜松市 1981年5月24日 杉野孝雄



オオヤマツツジ *Rhododendron transiens* Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

半常緑低木。高さ2 m。葉は長さ1~5 cm、ヤマツツジによく似ている。花期は4~5月。花はヤマツツジより大きく、紅紫色で上側内部に濃色の斑点がある。雄蕊は6~9個のこともあるがふつうは10個。子房は白色の密毛がある。近縁種のヤマツツジは雄蕊が5個。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方、静岡県、岡山県、山口県）に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から山地の日当たりがよい斜面の林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は散在する。産量は少ない。静岡県植物誌（1984）に伊豆の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が主要因である。高木による被陰（71）も脅威である。

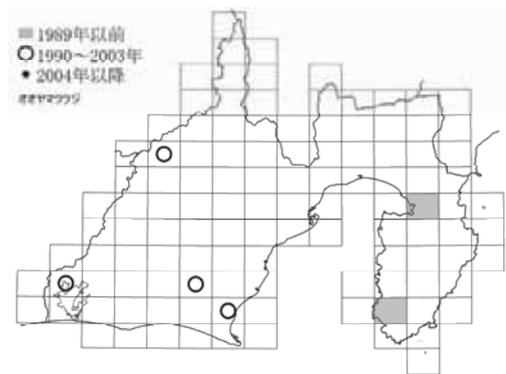
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2001年4月21日 内藤宇佐彦



ナガバジュズネノキ *Damnacanthus giganteus* (Makino) Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。高さ1~2.5 m。根は数珠状になる。葉は長楕円形で先端も基部も鋭形で長さ7~13 cm。葉の基部に短い刺があることが多いが、本県のものほとんどない。花期は4~5月。花はやや緑がかった白色で、花筒は長さ8~12 mm。液果は球形で直径3~5 mm。赤熟する。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（静岡県西部、愛知県以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖地の低山地の常緑広葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。個体数は少なく、発見当初より減少している。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）と堰堤周辺工事（13）による生育地の消失が脅威である。植林内のものは伐採された。

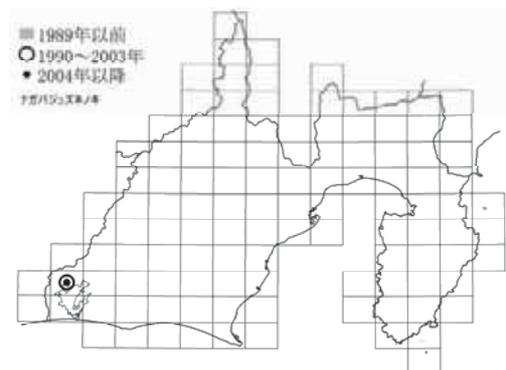
6. 保護対策

残る生育地の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2009年11月15日 内藤宇佐彦



ホソバナツルリンドウ *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

(=ホソバナツルリンドウ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 13

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1. 種の解説

ツル性の一年草。葉は披針形で長さ2~5 cm、先が長く尖り、裏面は紫色にならない。花期は10月。花冠は筒状で長さ30~35 mm、淡紫色、先は4裂する。蒴果は狭長楕円形で長さ10 mm内外。似ているツルリンドウは葉裏が紫色を帯びる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、ロシア(ウスリー、アムール、サハリン)に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の林縁や草地に生育する。石灰岩地にもみられる。

4. 生育状況

浜松市天竜区や静岡市葵区などに生育する。個体数は少ない。近年、調査が進み、新たな生育地が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

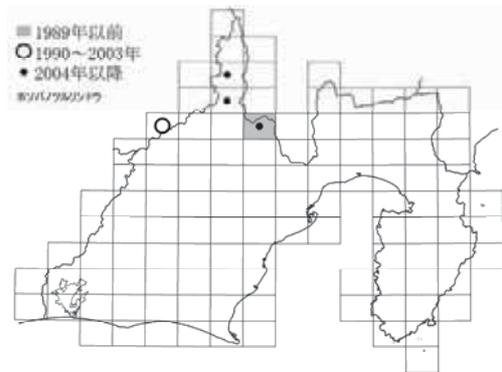
林道の造成(24)、土地崩落(71)などによるこの植物の生育適地の減少が主要因である。

6. 保護対策

目立ちにくい植物であり、森林伐採や林道の管理・造成にあたっては生育地を破壊しないように注意する必要がある。(内藤宇佐彦)



静岡市 2014年10月28日 湯浅保雄



ムラサキセンブリ *Swertia pseudochinensis* H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ50~70 cm。茎は太く暗紫色を帯び4稜がある。葉は線状披針形で長さ2~5 cm。花期は9~11月。花は淡紫色に濃紫の脈がある。花冠裂片は長さ8~12 mm、幅2.5~3 mm。センブリに似ているが、葉は少し広く、花卉も広い。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(東北部、北部)、ロシア(ウスリー)に、国内では北海道西南部、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の草地に生育する。蛇紋岩地の草地にもみられる。

4. 生育状況

浜名湖付近の産地では、ある程度まとまった個体数がみられる。他では少なく、減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

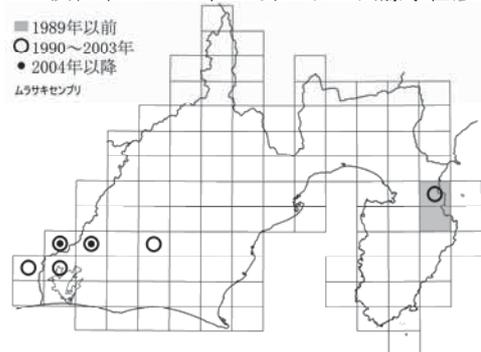
生育地が限られていること(61)や、草地が遷移の進行(54)により減少傾向にあることが要因である。

6. 保護対策

生育地の保護と草地維持のための管理(雑木伐採・草刈り)が必要である。(内藤宇佐彦)



浜松市 2015年11月1日 内藤宇佐彦



ヒメナエ *Mitrasacme indica* Wight

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

マチン科 Loganiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ5~10 cm。葉は茎全体にまばらにつき、披針形から線形で長さ3~8 mm、対生しほぼ無毛。花期は8~9月。花は小型で白色、葉腋に1個ずつつく。花冠は鐘形で先は4裂し、径2.5 mm。蒴果は球形で径2.5 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インド、マレーシア、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。産地は限られて個体数は少ない。海岸部の湿地ではかなり多かったが、最近ではほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

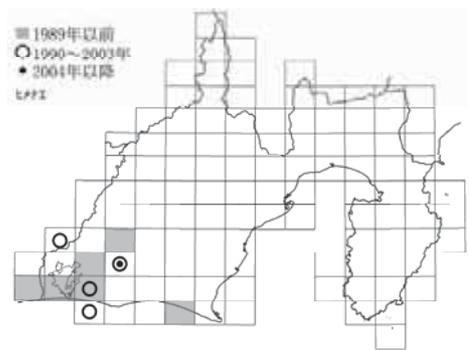
防風林の工事(71)、工場や宅地の造成(23)、埋め立て(15)などによって湿地が消失したことが要因である。

6. 保護対策

生育地の湿地の保護と水源の保全、植生遷移の抑制が必要である。(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年9月10日 宮崎一夫



チョウジソウ *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。茎葉直立し、高さ40~80 cmになる。葉は毛がなく、披針形で、先は鋭く尖り、長さ6~10 cm、幅1~2 cm。ふつうは互生するが、ときに一部対生する。花期は5~6月で、茎の先に多数の花をつける。花冠は青藍色、径13mm、5裂片に分かれる。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

川岸や池の畔などの湿ったところに生育する。

4. 生育状況

前回(2004年)の調査時と大きな変化はないが、植生遷移が進んで個体数は減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が減少の主要因である。

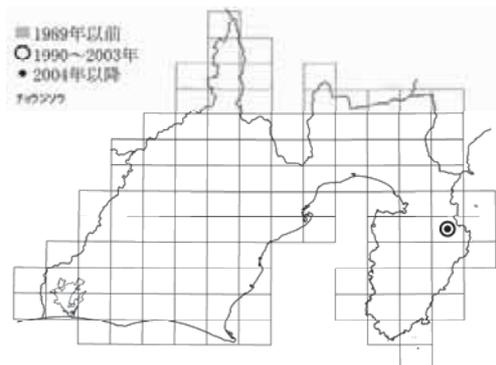
6. 保護対策

植生遷移を押さえ、本種の生育に適した環境を維持することが必要である。

(湯浅保雄)



伊東市 2012年5月18日 宮崎一夫



スナビキソウ *Heliotropium japonicum* A. Gray

(=ハマムラサキ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 6

ムラサキ科 Boraginaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。葉は互生して長さ 2.5~6 cm の長楕円状披針形で厚く全縁である。花期は 5~8 月。茎の先に短い散房花序を出す。花冠は白色で径 8 mm、中心は黄色で、先は 5 中裂して斜開する。花はよい香りがする。核果はコルク質で長さ 8 mm、海流散布される。近縁種のハマムラサキノキは鹿児島県以南に分布する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では伊豆、中部に分布する。

3. 生育環境

波の最大到着地点と海岸林の間の砂浜に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と伊豆に局限する。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

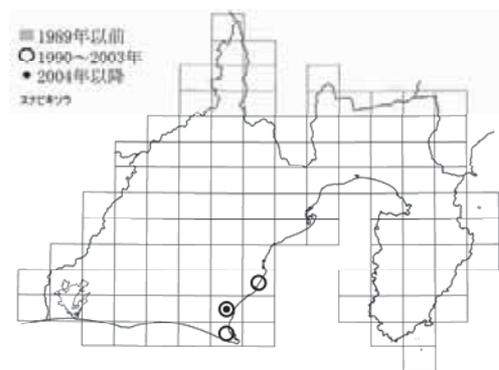
海浜開発 (14) が主要因である。砂浜海岸の浸食 (71) と踏圧 (51) も脅威である。

6. 保護対策

海岸開発を回避するとともに、生育地の立ち入りを制限して環境を保護保全することが重要である。(宮崎一夫)



牧之原市 2017年5月3日 宮崎一夫



ハマネナシカズラ *Cuscuta chinensis* Lam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 1

ヒルガオ科 Convolvulaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年生。つる性の寄生植物。茎は細く糸状でハマゴウなどからみつき、白~淡緑黄白色。花期は 7~9 月。花はマメダオシに似るが、顎筒に著しい 10 筋が隆起するために星形に見え、花冠は果実をほとんど包み込む。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、東南アジア、インド、オーストラリアに、国内では本州 (神奈川県以西の太平洋側と瀬戸内海沿岸)、四国に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂浜に生育する。

4. 生育状況

富士市などに生育する。全国的にも減少の著しい種である。生育環境が天然砂浜であり、本県でもその環境が著しく悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

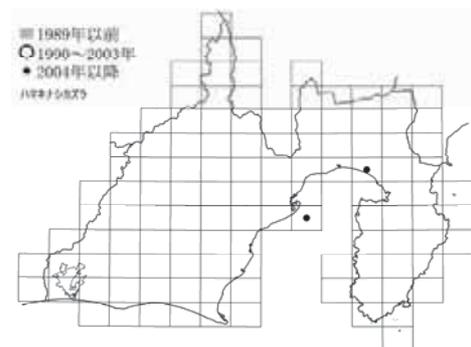
海岸開発や護岸工事など (14) で生育地が減少した。また、アメリカネナシカズラとの競合 (56) も無視できない。

6. 保護対策

今や少なくなった天然の海岸の砂浜の保護が必要である。(内藤宇佐彦)



富士市 2015年7月26日 内藤宇佐彦



ハシドイ *Syringa reticulata* (Blume) H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

モクセイ科 Oleaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ 6~7 m。樹皮は横に伸びる皮目がある。葉は広卵~卵形。先は鋭頭、基部は円形または浅心形。葉身の長さ 10 cm、幅 5~6 cm。表面は無毛、裏面には短毛がある。花期は 6~7 月。円錐花序に白色の両性花を多数つける。花冠は約 5 mm で 4 裂する。雄蕊は 2 個。蒴果は狭長楕円形、長さ 15~20 mm。種子は扁平な楕円形で周囲に翼がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜松市北部 (旧水窪町) に生育する。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

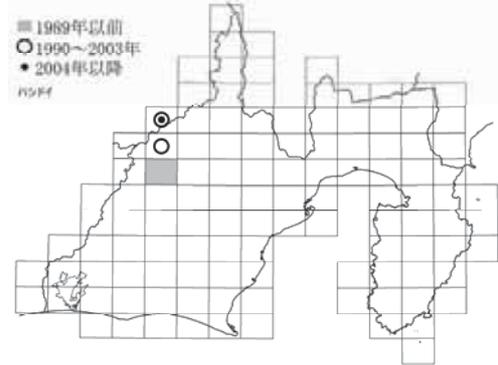
植生遷移 (54) と生育地の山林伐採 (11) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を周辺の環境とともに保護することが必要である。
(湯浅保雄)



浜松市 2015年7月10日 宮崎一夫



オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。水生植物。高さ 10~25 cm。茎は肉質で直立する。葉は長楕円形で長さ 1~3 cm。やや肉質の無柄で対生する。萼の基部に 2 個の小苞がある。花期は 5~6 月。花は葉腋につき筒形で長さ 4~7 mm。花冠は白色で閉鎖花もある。蒴果は長さ 3~4 mm の球形でアブの眼を思わせる。近縁種のアブノメは萼の基部に小苞がない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア (ウスリー) に、国内では北海道、本州 (宮城県以南)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の水田や池沼などの水湿地に生育する。

4. 生育状況

今回の調査では確認できていない。産地は多くはない。産量は年による消長がある。生育環境が改変されなければ、突然に発生することもある。

5. 減少の主要因と脅威

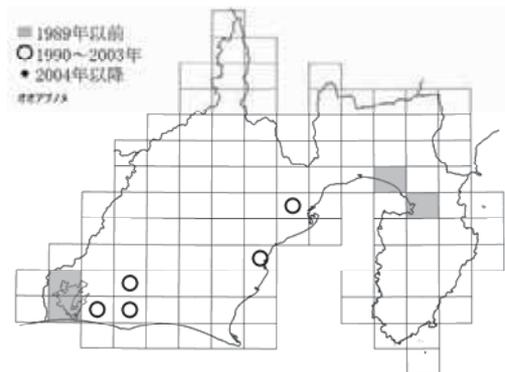
土地造成 (23) や農薬汚染 (32) と乾田化 (15) の影響を強く受けている。

6. 保護対策

農薬の使用量を減らして、土地造成などの開発を回避するとともに潜在的な生育地を復元保全する。
(宮崎一夫)



浜松市 1995年6月1日 宮崎一夫



スズメハコベ *Microcarpaea minima* (J. Koenig ex Retz.) Merr.

(=スズメノハコベ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

小型の一年草。茎は分岐して匍匐する。葉は無柄で小さく長さ2~5 mm、葉脈は不明。花期は7~10月。花は葉腋につき、萼は5裂し、花冠は淡紅色で長さ2.5 mm。蒴果は卵形で長さ1.2 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国南部、台湾、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、オセアニアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部と中部に分布する。

3. 生育環境

低地の水田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡市、島田市、掛川市、浜松市などに生育する。小さな植物のため個体数は多く見えるが、生えている場所はせまく、生育地も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

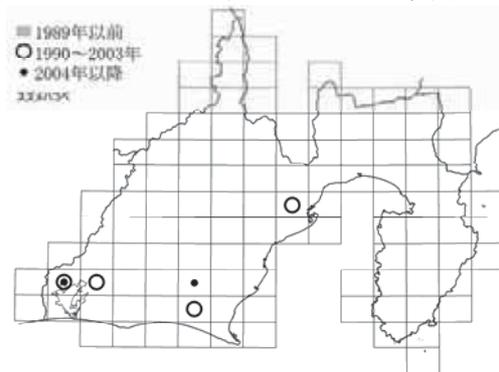
湿地や沼地の開発(12、13)、水田での除草剤使用(32)や乾田化・耕地整理(15)によって減少した。

6. 保護対策

湿地の保護と水田の生育地では現在の耕作形態の維持が必要である。(内藤宇佐彦)



浜松市北区 2017年9月10日 内藤宇佐彦



トラノオズカケ *Veronicastrum axillare* (Siebold et Zucc.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は湾曲して垂れ下がり、長さ70~150 cm。葉は卵~長楕円形で先は短く尖り、長さ6~11 cm。茎と葉柄は無毛。花期は8~9月。花は紅紫色で円錐形の花穂に多数つく。花冠は長さ5 mm、先は1/3ほどまで4裂し、雄蕊2本は花外に長く突き出す。蒴果は卵形で長さ3 mm。茎の先端が地面に接すると新苗を生ずる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州(静岡県)、四国(南部)、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は北東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯下部の常緑樹林内に生育する。竹林にもみられる。

4. 生育状況

西部の御前崎から小笠山付近までの山地、丘陵地の林内に点在する。産量はあまり多くない。

5. 減少の主要因と脅威

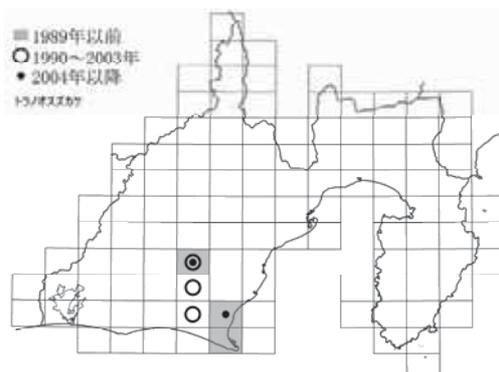
里山の植物で人為的な影響を受けやすい。山林伐採(11)、宅地造成(23)など生育地の消失で減少してきている。

6. 保護対策

不用意な山林伐採などで生育環境に変動を与えないことが必要である。(内藤宇佐彦)



掛川市 2011年9月6日 宮崎一夫



キタダケオドリコソウ *Lamium album* L. var. *kitadakense* N. Yonez.

(=ミヤマオドリコソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~80 cm。葉は対生し卵状三角形で長さ 5~8 cm。花期は 7~8 月。花は淡黄色で長さ 3~4 cm、葉腋につく。近縁種のオドリコソウは里地から丘陵地のすそに生育して、花期が 3~6 月、花は長さ 2.5~3.5 cm、白色または淡紫紅色である。

2. 分布

南アルプス固有変種で、本州 (山梨県、静岡県) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の標高 1,400~2,300 m の、沢筋の林縁や草地の湿ったところに生育する。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認できていない。産地は南アルプスに局限する。産量はきわめて少ない。生育状況は被陰による衰退が懸念される。

5. 減少の主要因と脅威

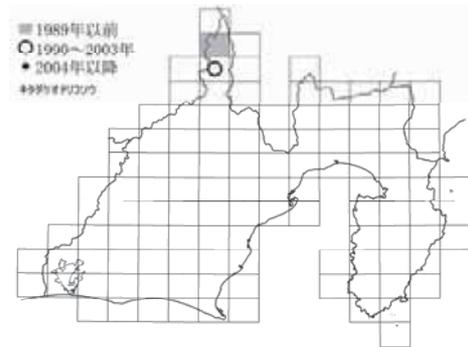
樹冠の被陰や土砂による流失 (71) が主要因である。林道開発 (24) も脅威である。

6. 保護対策

土石流を発生させないためにも、森林伐採は皆伐しないで計画的に択伐をすることも重要である。 (宮崎一夫)



静岡市 (栽培開花) 2000 年 5 月 11 日 杉野孝雄



ラショウモンカズラ *Meehania urticifolia* (Miq.) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~30 cm。全体に香気があり、花が終わると長い走出枝が茎の下部から伸びる。葉は 2~3 cm の葉柄があり、三角状心形であらい鈍鋸歯がある。花期は 5 月。花冠は大きく長さ 4~5 cm、唇形で紫色である。分果は長さ約 3 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の森林の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

富士山麓と西部の県境付近に生育する。長野県ではふつうに見られる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地での林道の拡張や整備 (24)、高原地帯の開発 (23) により減少した。

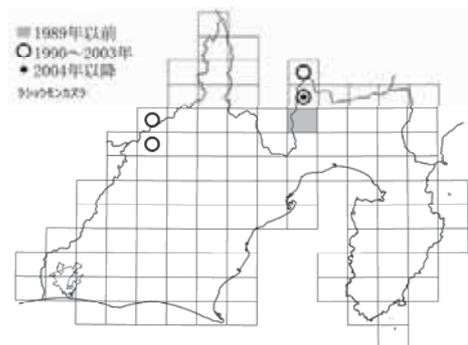
6. 保護対策

道路整備などが生育地に影響を与えないようにすることと、生育地の自然林と草地の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996 年 5 月 18 日 内藤宇佐彦



ヒメハッカ *Mentha japonica* (Miq.) Makino

(=ヒメメグサ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。全株ほとんど無毛。長く地下茎をひく。葉は卵状楕円形で長さ1~2 cm、全縁で先が鈍い。花期は8~10月。花は淡紅紫色で長さ3.5~4 mm、茎の先に多数集まってつく。分果は扁平でほぼ円形、径約0.8 mm。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（和歌山県以北）に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

湿地に生育する。

4. 生育状況

東伊豆町と浮島沼などに生育する。産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の湿地開発 (15)、植生の遷移 (54)、水質汚濁 (31)、湿地の乾燥 (53) などが生育に脅威を与えている。

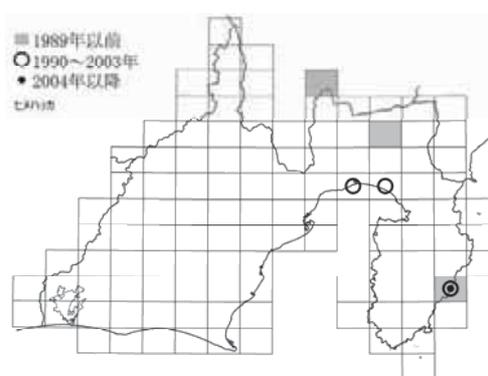
6. 保護対策

生育地の一部は、行政による保護地域内にある。他の産地も同様の保護を図りたい。

(西口紀雄)



東伊豆町 2012年8月19日 西口紀雄



ヤマジソ *Mosla japonica* (Benth. ex Oliv.) Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ5~30 cm。ヒメジソに似る。葉は長さ1.3~3 cm、卵~広卵形で短毛を散生する。花期は9~10月。花穂は1~4 cmで密に花をつける。花冠は淡紅色。苞は卵形で長さ3~6 mm、下部のものは萼より長い。分果は球形で長さ1.3 mm。

2. 分布

国外では韓国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や丘陵地の日当たりのよい裸地状の場所に生育する。

4. 生育状況

県内に広く生育する。個体数の多い場所もある。生育環境の悪化の影響を受け減少している。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の開発 (23) や草地の管理放棄 (53) に伴う遷移進行によって減少した。

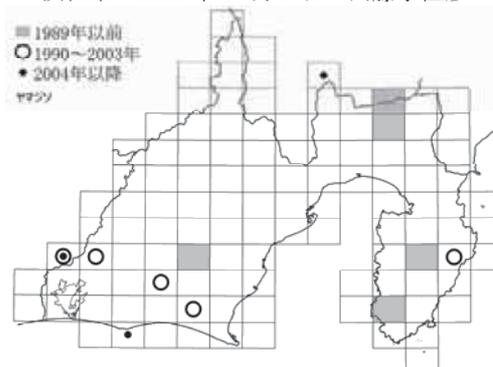
6. 保護対策

生育地の保護には草刈りをするなど草地の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年10月7日 内藤宇佐彦



シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~60 cm。葉は 1 回羽状複葉で、茎の下部に集まる傾向があり、やや厚い。花期は 7~8 月。花は茎の先に穂状にまばらにつき、花冠は長さ 6~8 mm で淡青紫色。雄蕊が花の外に突き出る。分果はほぼ円形で長さ約 1.8 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、岐阜県、愛知県、三重県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい蛇紋岩地の草地や疎林に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区、北区の蛇紋岩地の限られた地域に生育する。まとまった数の個体数がみられる所もある。減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

草地の管理不足に伴う遷移進行 (53) によって減少している。

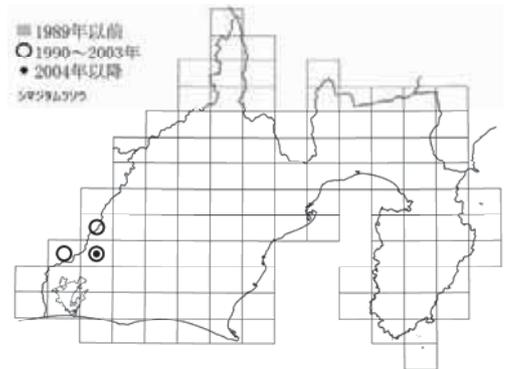
6. 保護対策

生育地の保護には樹木の伐採や草刈りなどによる草地の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年7月24日 内藤宇佐彦



ヤマジノタツナミソウ *Scutellaria amabilis* H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。茎は束生し、短い地下茎から生える。高さ 15~25 cm。上向きの毛がある。葉は広卵~卵心形で長さ 1~2 cm。幅 0.8~2 cm。縁にはあらい鋸歯がある。両面に細毛がある。花期は 5~6 月。花序は短く、花はまばらにつく。花冠は長さ 2~2.5 cm で青紫色。基部で折れ曲がり立ち上がる。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部地方、近畿地方）に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地や丘陵地の林内や林縁。道路沿いの草地。

4. 生育状況

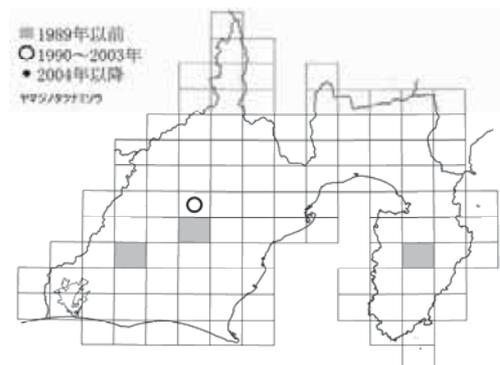
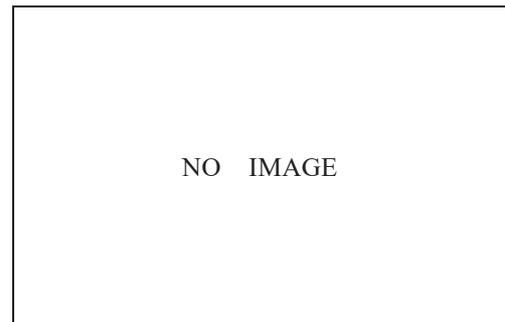
産地は限られていて個体数は少ない。前回 (2004 年) の調査では旧中川根町で確認されたが、今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による急激な環境変化と道路工事 (24) による自生地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

道路工事などを行う場合は、植物の事前調査を行い、タツナミソウ類が見つかったら、確実な同定を行い、ヤマジノタツナミソウであったら、保護策をたてること。(湯浅保雄)



ヒメナミキ *Scutellaria dependens* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件要件-①②) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

繊細な多年草。高さ10~60 cm。葉身は短い柄につき、三角状披針形または三角状卵形で、長さ1~2 cmである。花期は6~8月。花は葉腋に1個ずつつき、長さ6~7 mm、白色でわずかに淡紅紫色を帯びる。分果は長さ約0.7 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(東北部、北部)、ロシア(ウスリー、アムール、東シベリア)、モンゴルに、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿地や沼地の草地に生育する。

4. 生育状況

沼津市などに生育する。まとまった数の個体数がみられる場所もある。各地に点在していたが消失した所もある。西部の休耕地の生育地は消失した。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の湿地や沼地の開発(12、15)によって減少した。

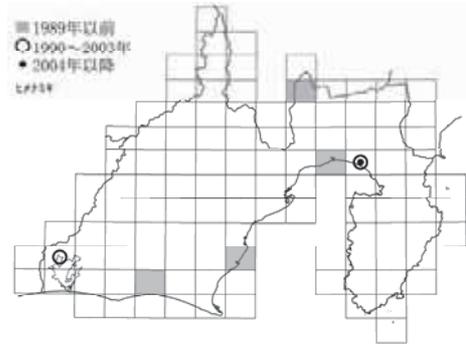
6. 保護対策

生育地の湿地環境の保全と、草地の遷移進行を抑制するために草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦)



沼津市 2017年7月23日 内藤宇佐彦



イズコゴメグサ *Euphrasia insignis* Wettst. subsp. *innumae* (Takeda) T. Yamaz. var. *idzuensis* (Takeda) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ40~50 cm。葉の幅は狭く卵状長楕円形で鋸歯は3対である。花期は8~9月。白色で下唇内面に黄斑がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(神奈川県、静岡県、愛知県)に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵地、草原の日当たりのよい斜面などに生育する。乾燥しやすい尾根や歩道などにも見られる。

4. 生育状況

東伊豆町や浜松市などに生育する。個体数は少ない。生育地では背の高いほかの植物との競合が顕著である。

5. 減少の主要因と脅威

生育地での草原の消失(16)や植生の遷移進行(54)による被陰で減少している。

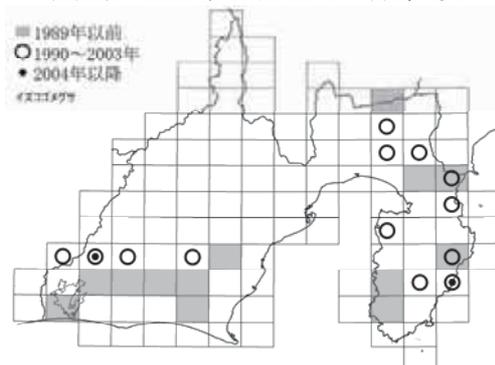
6. 保護対策

草原の保護と草刈りなどでその維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2018年10月29日 宮崎一夫



ハマウツボ *Orobanche coerulescens* Stephan ex Willd.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。全寄生植物。高さ10~30 cm。全体に白色の軟毛が多い。茎は黄褐色で太く中空で直立して分枝しない。葉は鱗片状で黄褐色。花期は5~7月。花序は穂状。苞は三角状披針形で長さ7~15 mm。萼は長さ1 cmで萼片は2裂する。花は無柄、淡紫褐色で長さ2 mm。近縁種のヤセウツボは帰化植物で、高さ10~100 cm、花冠は淡黄色である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国、シベリア、東ヨーロッパに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地に生え、主にカワラヨモギの根に寄生する。

4. 生育状況

産地、産量はきわめて少ない。宿主の生育に依存する。年による株数の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

海浜近くの大きな改変(14)や河川敷の造成(13)が主要因である。観察者や撮影者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、カワラヨモギに適した生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



愛知県 2008年5月8日 宮崎一夫



ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮遊性の一年草。食虫植物。越冬芽を作らない。葉は互生し、四方に糸状に分裂して立体的に広がる。裂片の基部近くに少数の捕虫袋をつける。花期は8~10月。葉腋から8~20 cmの花茎を水上に直立し、黄色の花を4~10個つける。花冠は径6~7 mm。花茎には鱗片葉はない。蒴果は球形で、ほぼ同じ長さに伸長した花柱がついている。タヌキモの水中葉は裂片を一平面上に配列し、また花茎に鱗片葉があり、さらに越冬芽を作るので区別できる。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部からインド、マレーシアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼、ため池、水田の用水路などの水中。

4. 生育状況

かつては県西部に広く分布していたが、生育地の消失と水質悪化が原因で、ほとんど見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

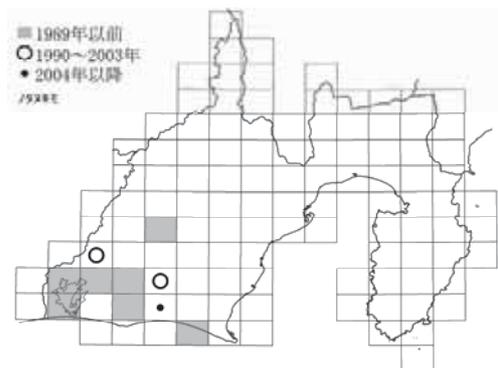
池沼の開発(12)による生育地の消失、農薬汚染(32)、水質汚濁(31)などが減少の主要因である。

6. 保護対策

池沼の水質浄化を行うこと。(湯浅保雄)



袋井市 1993年10月3日 宮崎一夫



イヌタヌキモ *Utricularia australis* R. Br.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性の多年草。食虫植物。越冬芽を秋に生じ長楕円形。葉は互生し、羽状に分枝し、さらに数回分枝する。葉の裂片に多数の捕虫囊をつける。花期は7~9月。黄色の花を3~10個つけ、花冠は約1 cm。蒴果は球形で直径約3 mm。葉はタヌキモに似るが、花茎は中実、越冬芽は長楕円形で暗褐色、長さ4~10 mm、幅3~7 mmである。

2. 分布

国外ではアジア、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパに、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地や山地の池や水田などに生育する。

4. 生育状況

西部の池と水田に生育する。個体数の多い所もあるが生育地は少なく、減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

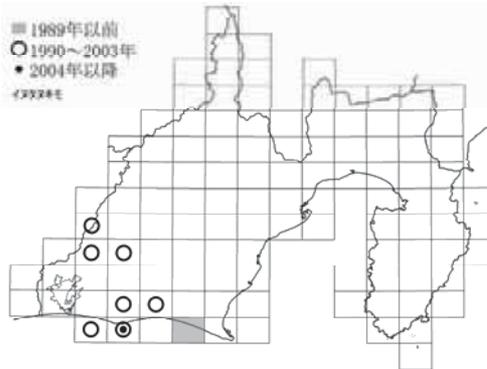
池沼の埋め立てや開発 (12)、水田での農薬使用 (32) や耕地整理による乾田化 (15) によって減少した。

6. 保護対策

池沼の保全と水田の生育地では現在の耕作形態の維持が必要である。
(内藤宇佐彦)



浜松市 2008年9月3日 宮崎一夫



タヌキモ *Utricularia × japonica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性の多年草。食虫植物。高さ10~25 cm。花茎の中心に気道がある。茎は分枝して長さ1 mとなる。葉は互生して基部で2個の小葉に分かれ、小葉内の分枝は平面的である。裂片には淡黄緑色の捕虫囊をつける。花期は7~9月。水面から上に花茎を伸ばして花を4~10個つける。花冠は鮮黄色の唇形で長さ1.5 cm、下唇に赤褐色の縞模様がある。越冬芽は球形である。近縁種のノタヌキモは花茎に空洞はない。

2. 分布

国外の分布は不明、国内では本州、九州に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

低地のため池や池沼に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は小群生する。水量の減少や水質の悪化により生育状況は悪化している。

5. 減少の主要因と脅威

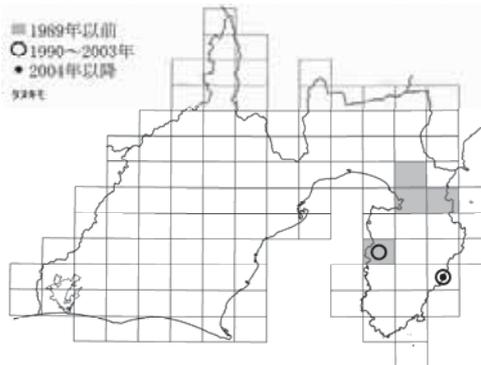
ため池の改良や壊滅 (12) が主要因である。池沼の水量が減少 (71) することも脅威である。

6. 保護対策

利用しなくなったため池にも、生存権をもった生物が生息しているので、ため池の破壊は慎重な配慮が必要である。
(宮崎一夫)



東伊豆町 2012年8月31日 加藤 徹



ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。食虫植物。高さ5~15 cm。葉はへら形で3~6 mm。捕虫嚢は球形で直径1~1.5 mm。花期は8~9月。花は藍紫~白色、長さ約3 mmで花柄がある。距は下側前方を向く。近縁種のミミカキグサは花が黄色。

2. 分布

国外ではアジアからオーストラリアに、国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地から山地にある湿地の、主として泥上に生育する。

4. 生育状況

西部の湿地に多く見られた植物であるが、湿地の消失で著しく減少している。他地域では東伊豆町に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

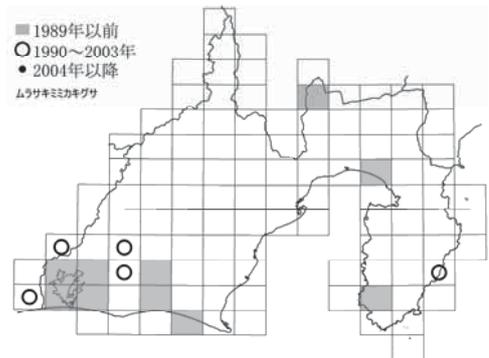
丘陵地の開発(工場、住宅、農業用地、道路)(23、24)に伴う湿地の消失により減少した。

6. 保護対策

生育湿地の保護が必要である。湿地植生の遷移進行を抑制する対策も必要である。本種の白花品シロバナミミカキグサも対象である。(内藤宇佐彦)



浜松市 1995年9月9日 内藤宇佐彦



ツルギキョウ *Codonopsis javanica* (Blume) Hook. f. et Thomson

subsp. *japonica* (Makino) Lammers

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

つる性多年草。蔓は長さ2~4 m。茎は細くて葉柄で草木などからみつく。葉は長柄があり卵心形で長さ3~9 cm。花期は8~10月。花は腋生して垂れ下がる。花冠は広鐘形で長さ10~15 mm、先は5中裂して反り返り、外側が淡緑白色で内側の奥は暗赤紫色。液果は扁球形で径10~12 mm。近縁種のツルニンジン花冠裂片が5浅裂である。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の草原や低山の林縁や谷に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量はきわめて少ない。園芸採取もあり産量は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

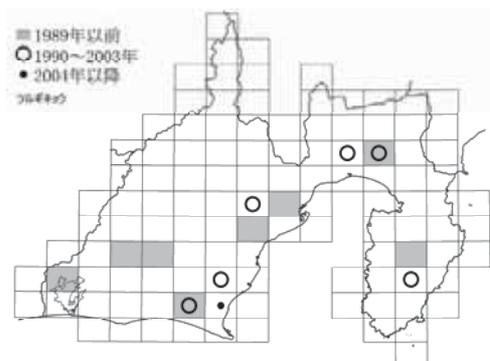
森林伐採(11)や植生遷移の進行(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

開発する際には見過ごさないように花期に植物調査を行うことが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



牧之原市 2009年8月29日 宮崎一夫



バアソブ *Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsf.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 9

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリ なし: 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

つる性の多年生草本。ツルニンジンに似ているが、全体に小型で塊根は短く、球形である。葉は長さ2.5-5 cmで裏面に毛が多い。花期は7-8月。花冠は鐘状で2-2.5 cm、内面は紫色で、下半部に濃紫の斑点がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア(ウスリー、アムール)に、国内では北海道から九州に、県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地や丘陵地の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

富士宮市などに生育する。生育地が少なく、個体数も少ない。植生遷移と被陰により開花株が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草地や疎林の開発による生育地の消失(23)や、生育地の遷移進行(54)による被陰で減少した。

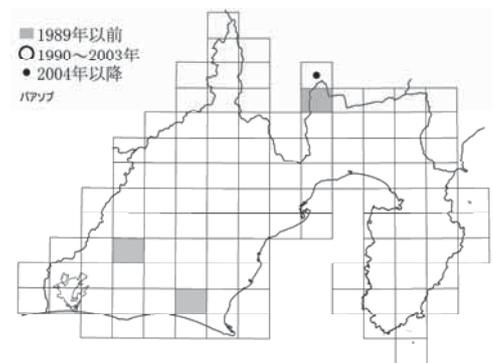
6. 保護対策

草地・草原の保護と遷移進行の抑制のため草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦・宮崎一夫)



富士宮市 2011年8月28日 内藤宇佐彦



キキョウ *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A. DC.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~100 cm。根茎は太い。茎を切ると白色の乳液が出る。葉は長卵形で長さ4~7 cm、ほとんど無柄で、互生、輪生、対生と多様。下面は粉白色を帯びる。花期は7~9月。花冠は青紫色で5中裂して径3~5 cm。植栽もされ園芸品種は多数。近縁種のヒナギキョウは高さが50 cm以下で、花冠が径5~7 mmである。100年後に野生で見られる確率を示すための指標となる代表種である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、アムール)に、国内では北海道、本州、四国、九州、奄美に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山野の日の当たる草原に生育する。

4. 生育状況

産地は多くあり広範囲に点在する。産量は多い。植生遷移の圧力や園芸採取により減少している。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)や植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

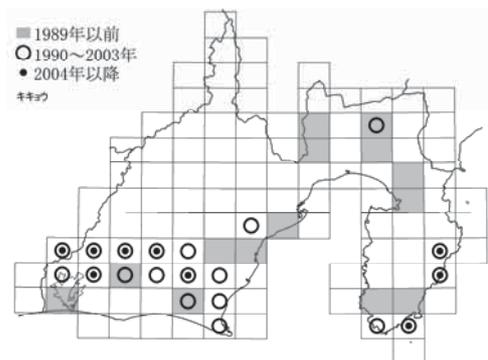
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなど、環境に応じて善処することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2013年8月24日 宮崎一夫



ガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

水生の多年草。地下茎はない。茎は細長く、水底の泥の中にひげ状の根を下ろしている。葉は円状心臓形で形 7~20 cm。表面は緑色で裏面は紫色。花期は7~9月。葉柄基部に多数の花を束生し、3~10 cmの花柄の先に白色の花を開く。花冠は径約 15 mm。萼は深く 5 裂し緑色。花冠も深く 5 裂し、縁は糸状に細く裂ける。雄蕊 5 本、雌蕊 1 本。蒴果は楕円形で長さ 4~5 mm。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、東南アジア、アフリカ、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や農業用ため池などの水中。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では 4 ヶ所の池沼で見られたが、今回の調査では 3 ヶ所でしか確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

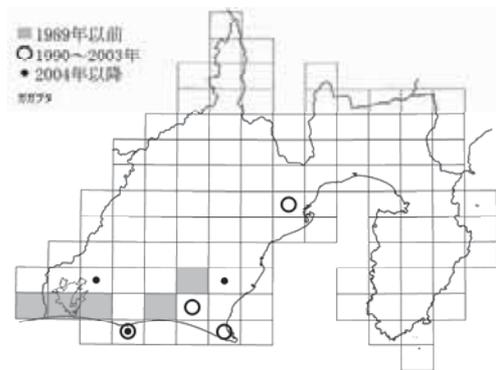
除草剤や化学肥料の流入 (32)、釣り餌による水質汚濁 (31) が主要因である。また園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

水質汚濁を防ぎ、また池沼の改修時には生育環境を損なわないように十分注意すること。
(湯浅保雄)



浜松市 2016年8月21日 宮崎一夫



アサザ *Nymphoides peltata* (S. G. Gmel.) Kuntze

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧類 (NT)]

1. 種の解説

水生の多年草。根茎は水底の泥の中を這い、それから太い茎を出す。葉は水面に浮かび、卵形または円形で径 5~10 cm。縁に波状の鋸歯がある。表面緑色、裏面は淡紫色で粒状の腺点がある。花期は 6~8 月。葉腋から数本の花茎を出し黄色の花を水面に開く。花冠は 5 裂し、縁は糸状に裂ける。雄蕊 5 本、雌蕊 1 本。果実は扁平。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国からユーラシア大陸の冷温帯に広く、国内では本州 (宮城県以南)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼の水中。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査では、県内の 1 ヶ所で記録されているが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) や園芸採取 (41) が減少の主要因である。

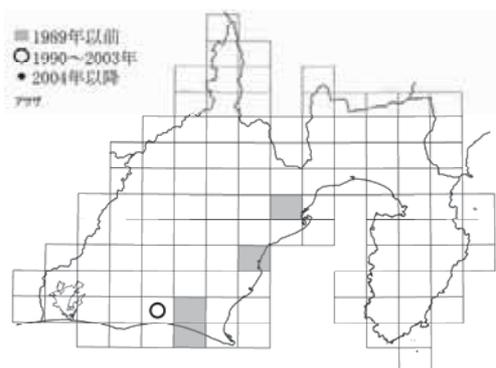
6. 保護対策

生育地では生育環境を破壊しないように努めること。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2008年5月30日 宮崎一夫



トダイハハコ *Anaphalis sinica* Hance var. *pernivea* T. Shimizu

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 3, 4

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。雄性両性異株。高さ20~30 cm。茎、頭花の柄、葉が白色の綿毛で厚く覆われる。葉は短く幅が広く無柄、基部は狭くなって茎に沿って翼状に流れる。基準亜種のヤハズハハコの葉の表面は緑色で、初め灰白色の綿毛があるが、後に薄くなる。それに比べ本亜種の綿毛はあとまで残り多い。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部(南アルプス、秩父山地)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

岩石地や岩の多い砂礫地。法面の岩壁などに生育する。

4. 生育状況

県内産はヤハズハハコとされていたが、詳細な検討の結果、本種であることが判明した。また、以前に採集された標本を調査した結果、上記の場所に分布していることが確認できた。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)、道路の拡幅(24)や法面緑化(71)が減少の主要因である。

6. 保護対策

道路工事を行うときには、生育の有無を確認すること。
(湯浅保雄)



静岡市 2018年8月26日 湯浅保雄



キタダケヨモギ *Artemisia kitadakensis* H. Hara et Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU): 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)]

1. 種の解説

亜低木。茎は密に叢生し、花茎は高さ20~30 cm。無花茎は10~20 cmで先に葉を密生する。茎葉の葉身は長さ18~26 mm、幅20~25 mm、1~2回3全裂し、裂片は線形。両面に白色の長い毛を密生する。花期は8月。頭花は花茎に多数総状につく。頭花は幅8 mm。総苞は半球形で絹毛を密生する。

2. 分布

日本固有種で、本州(山梨県、長野県、静岡県)に、県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山の砂礫地。

4. 生育状況

産地は限られているが、まだ個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

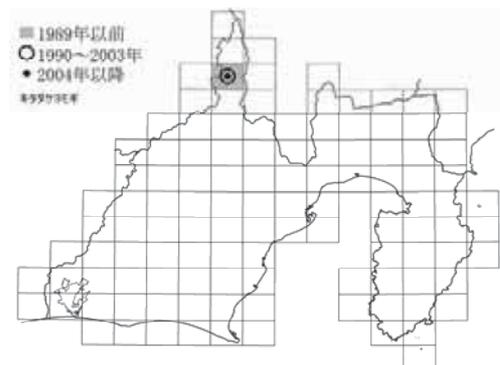
植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地に立ち入らないような対策が必要である。
(湯浅保雄)



静岡市 2009年8月23日 内藤宇佐彦



ユキヨモギ *Artemisia momiyamae* Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ1 m内外。茎は叢生する。下部の葉は長楕円形で長さ12 cm、羽状に3全裂し、羽片はさらに3中裂する。表面にはくも毛があり、裏面は灰白色の綿毛が密生している。花期は10~11月。円錐花序に多数の頭花をつける。頭花は筒鐘形で、長さ4 mm、幅1.5~2 mm。白綿毛が密生している。フォッサ・マグナ要素の植物とされている。

2. 分布

日本固有種で、本州（東京都三宅島、神奈川県、静岡県）に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の崖地や砂地。

4. 生育状況

産地は限られており、個体数も多くない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発(14)による生育適地の消失が減少の主要因である。

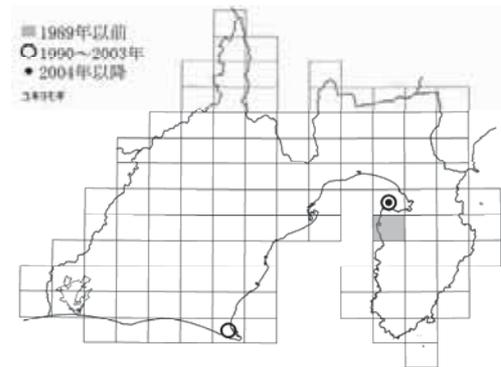
6. 保護対策

生育地の環境をあまり変化させないこと。

(湯浅保雄)



沼津市 2016年11月16日 湯浅保雄



シブカワシロギク *Aster rugulosus* Maxim. var. *shibukawaensis* Kitam. et Murata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~60 cm。地下茎は匍匐しない。茎は細く直立し分枝は少ない。葉は互生して線状披針形で長さ7~17 cm、やや硬くざらつき縁にまばらに低い鋸歯がある。根出葉は花時にも残る。花期は8~10月。頭花は白色で径25 mm。総苞は長さ4~5 mm。総苞片は3列。舌状花は白色で7~12個つき雌性である。柱頭は2裂。筒状花は黄色で花冠の先が5裂する。近縁種のサワシロギクは匍匐茎があり、根出葉が花時にはない。浜松市北区渋川が基準産地である。

2. 分布

静岡県固有変種で、県内では西部、中部に分布する。

3. 生育環境

蛇紋岩地帯の砂礫地や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は少なく渋川周辺に局限する。産量は小群生する。植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

開発(23)と植生遷移(54)が主要因である。動物の食害(52-2)も脅威である。

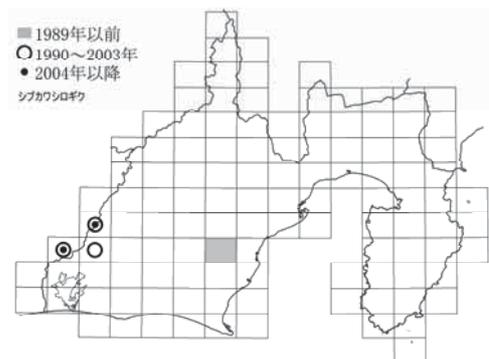
6. 保護対策

宅地造成など産地周辺の開発は、慎重な配慮が必要である。植生遷移を抑制することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2015年8月18日 宮崎一夫



ウラギク *Tripolium pannonicum* (Jacq.) Schur

(=ハマシオン)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

越年草。高さ 25~80 cm。茎は無毛で分枝する。葉は披針形で長さ 5~10 cm。花期は 9~11 月。頭花は径 2 cm で舌状花は紫色である。冠毛は 5~15 mm に達する。瘦果は狭長楕円形で扁平、長さ 2.5~3 mm。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、アフリカに、国内では、北海道から九州までの太平洋岸に分布する。県内では、中部と西部に分布する。

3. 生育環境

河口付近の塩湿地に生育する。

4. 生育状況

旧清水市と旧細江町に生育する。海岸のヨシの間に、ヨシに守られるように生育する。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の海辺、湖岸の干拓や護岸工事など (12、14) で、生育環境が奪われ減少した。

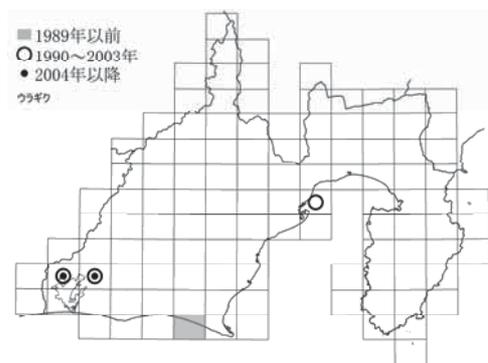
6. 保護対策

現存する生育地では、環境に配慮した保護対策が必要である。

(西口紀雄)



浜松市 2010年10月23日 西口紀雄



フジバカマ *Eupatorium japonicum* Thunb.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 1~1.5 m。茎の下部は無毛、上部にやや密に縮細毛がある。葉はふつう 3 深裂し、裂片は長楕円形あるいは披針状長楕円形。長さ 8~13 cm、幅 3~4.5 cm。花期は 8~9 月。頭花は枝の先に多数つく。総苞は長さ 7~8 mm、片は 10 個。小花は 5 個。瘦果は長さ 3 mm。類似のサワヒヨドリやヒヨドリバナには葉裏に腺点があるが、本種は腺点を欠く。奈良時代に中国または朝鮮半島から伝来したと考えられている。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州 (関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

河原や堤防、道ばたの湿潤な所。

4. 生育状況

かつて中部と西部の河原などに広く点在していたが、前回 (2004年) の調査時も、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修 (13) や土地の造成工事 (23)、植生の遷移 (54) が減少の主要因である。

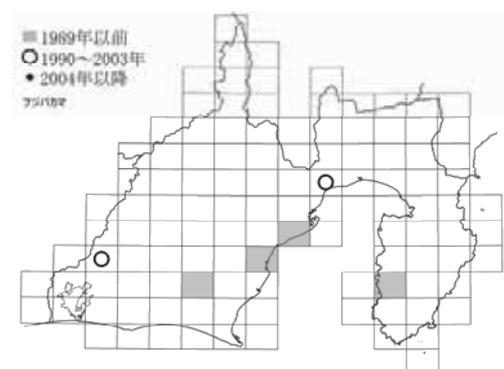
6. 保護対策

自生生育地が見つかったら、生育に適した環境を維持し保全すること。

(湯浅保雄)



掛川市 2001年9月21日 杉野孝雄



アキノハハコグサ *Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B. L. Burtt

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80 cm。茎は白色の綿毛がある。葉は広線形で長さ4~5 cm、先は鋭く基部はやや茎を抱く。葉裏は白綿毛が密生する。花期は9~11月。頭花は鮮黄色で枝先に集まる。総苞は球状鐘形で長さ4 mm、総苞片は淡黄色5列。冠毛は汚白色で長さ3 mm。近縁種のハハコグサは高さが40 cm以下で総苞片は3列である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン、インドなどに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵から山地の乾いた崖状地や日当たりのよい疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は点在する。産量はややまとまってある。株数は年による消長がある。植生遷移によりニッチを奪われている。

5. 減少の主要因と脅威

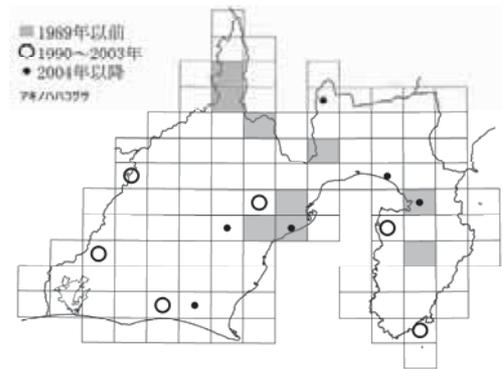
樹冠の被陰と草地の植生遷移(54)が主要因である。崖状地に外来種の吹き付けをすることも脅威である(56)。

6. 保護対策

崖状地や草地を保全し、過去に生育していた潜在的な生育地を、生育に適する環境に回復することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2001年11月16日 宮崎一夫



ヤナギノギク *Aster hispidus* Thunb. var. *leptocladus* (Makino) Okuyama

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード1

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ なし : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

越年草。高さ30~80 cm。ヤマジノギクの変種である。茎は中、上部で多く枝を分け、斜上する。葉は線形で長さ3~6 cm。花期は10~11月。頭花は淡青紫色でやや小さく径3 cm、冠毛は1~2.5 mmでヤマジノギクより短い。従来、本変種は高知県の蛇紋岩地帯固有とされてきたが、最近では本県と愛知県県境付近に生育するものも本変種とされた。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県、愛知県)、四国(高知県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

蛇紋岩地帯の半裸地上や草地に生育する。

4. 生育状況

個体数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

生育する草地や裸地の遷移進行(54)が減少の主要因である。

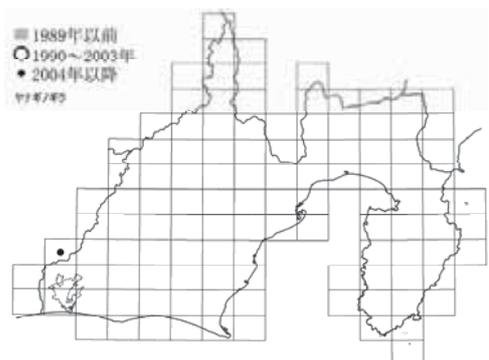
6. 保護対策

草地の保全のため、草刈りなど遷移抑制の対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Miyazaki
浜松市北区 2012年11月5日 宮崎一夫



ヤナギタンポポ *Hieracium umbellatum* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ 30~120 cm。上部には短毛と星状毛が密生する。茎葉は多数互生し、披針形で長さ 4~12 cm、幅 5~12 mm で縁には少数の鋸歯がある。花期は 8~9 月。茎の先に散房状に径 3 cm 前後の頭花を 3~80 個つける。頭花は舌状花のみからなり花冠は黄色。瘦果は円柱形で、長さ 2.5~3 mm、黒褐色で 10 肋がある。

2. 分布

国外では北半球の冷温帯域に、国内では南千島、北海道、本州、四国に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

一般には冷温帯山地のやや湿ったところに生えるが、富士山では砂礫地に生える。

4. 生育状況

富士山とその周辺に生育するが産地及び個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の植生遷移 (54) が減少の主要因である。また、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

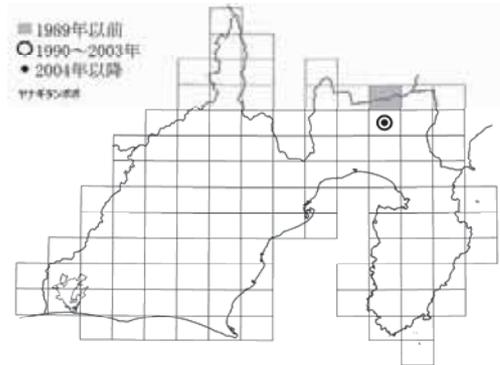
6. 保護対策

生育している草地の維持管理が必要である。

(湯浅保雄)



長野県 2019年9月27日 室伏幸一



タカサゴソウ *Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai

subsp. *strigosa* (H. Lév. et Vaniot) Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。花茎は直立し、根出葉は線状披針形で長さ 8~24 cm。花期にもよく発達している。葉縁には疎歯状か羽状の欠刻がある。花期は 4~7 月。頭花は径 2~2.5 mm。小花は舌状花で 20~30 個。花冠は白色で、淡紫色の縁取りがある。瘦果は長さ約 6 mm で冠毛は純白色。

2. 分布

国外では、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

明るい乾いた草原。

4. 生育状況

かつては県内の草地に広く分布していたが、前回 (2004 年) 調査時には、掛川市内の 2ヶ所で確認されたにすぎず、今回の調査では全く確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

草原の開発 (16) や管理放棄 (54) による植生の変化が減少の主要因である。

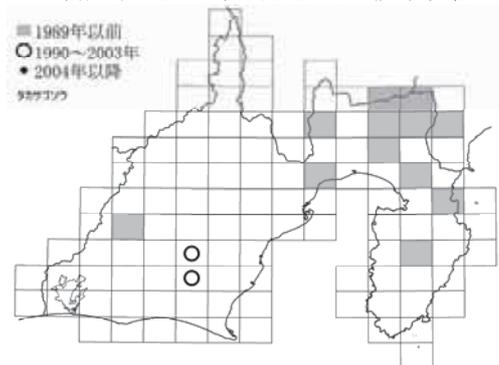
6. 保護対策

生育が確認できたら、その周辺を含めて草原化し、その維持管理を行うこと。

(湯浅保雄)



掛川市 1993年5月16日 杉野孝雄



クモマニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev

subsp. *kimuranum* (Kitam.) J. H. Pak et Kawano

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~30 cm。根出葉は広楕円形。茎葉は茎を抱かない。有花茎の葉は線形である。花期は7月。頭花は黄色。シロバナクモマニガナは白色で同じ扱いである。小花は8~12個ある。瘦果は長さ4~5.5 mm。近縁種のニガナは小花数が5~7個である。

2. 分布

日本固有亜種で、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯と高山帯下位の岩場や岩礫地の斜面で、乾燥した草地に生育する。

4. 生育状況

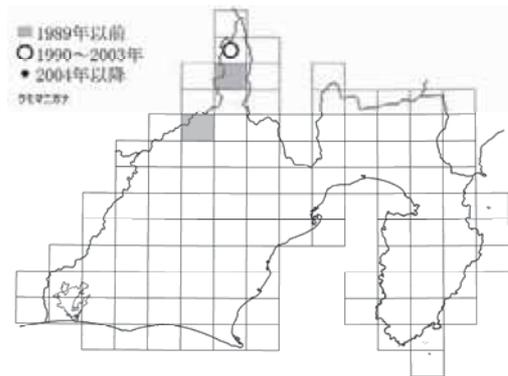
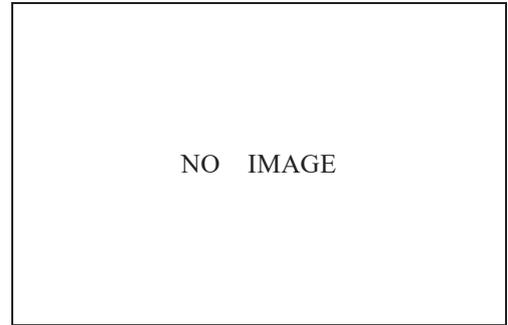
産地は南アルプスに局限する。産量はきわめて少ない。植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。登山者の踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

登山道の迂回整備や登山者のマナーにより踏圧を回避する。
(宮崎一夫)



ホソバニガナ *Ixeridium beauverdianum* (H. Lév.) Springate

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ20~40 cm。根出葉は線状披針形で長さ5~15 cm、幅3~8 mm。茎葉はふつう3枚あるが茎を抱かない。花期は5~8月。頭花は黄色で直径約1cm。小花は5~6個。瘦果は長さ約3 mm、10肋がある。葉の幅は違うが、ニガナの茎葉は茎を抱き、似た環境に生えるノニガナの茎葉も矢尻状に茎を抱くので容易に区別できる。

2. 分布

国外では中国からヒマラヤに、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

湿地周辺の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、旧浜北市の記録もあるが、現在は静岡市のみに見られる。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の湿地の減少(15)と植生遷移(54)が減少の主要因である。

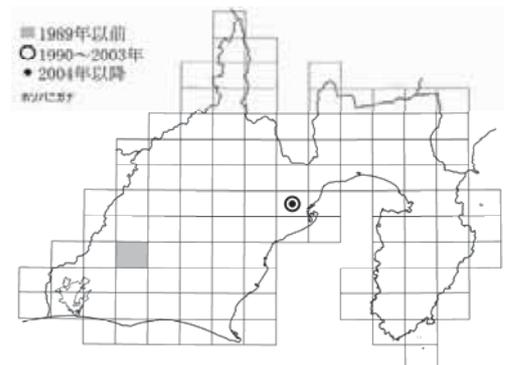
6. 保護対策

生育している草地の維持管理が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年7月11日 室伏幸一



ヤハズトウヒレン *Saussurea sagitta* Franch.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~45 cm。茎は細く、葉は茎の上方までつき、短い柄のある矢じり形の三角形で、長さ 6~8 cm、基部は茎に沿下する。根出葉は開花時にはない。花期は 8 月。頭花は径 1 cm、細長い柄の先につく。総苞は長さ 9~10 cm、総苞片は 6 列。花冠は淡紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州（中北部）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯と高山帯の草原や岩石地。

4. 生育状況

調査不足により不明。

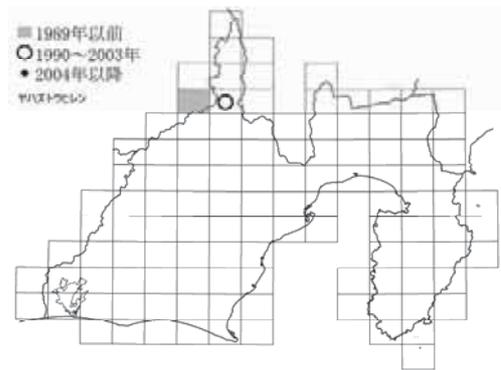
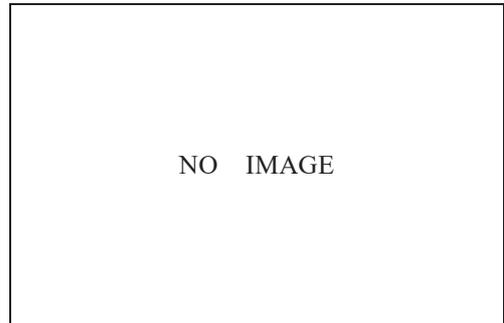
5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) と登山者による踏みつけ (51) が減少の主要因と考えられる。また、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

6. 保護対策

登山者の生育地への立ち入りを制限し、シカによる食害を防ぐ対策を行うこと。

(湯浅保雄)



ハチジョウナ *Sonchus brachyotus* DC.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~100 cm。長い地下茎を出して繁殖する。葉は互生。広い披針形で縁には大小の鋸歯があり、基部は茎を抱く。茎とともに無毛で裏面は粉白色。花期は 8~10 月。頭花は径 3~3.5 cm。総苞は 1.6~2 cm で密に綿毛が生える。小花の花被片は黄色。瘦果は長さ 3.5 mm。両面に縦に走る数本の線がある。冠毛は長さ 1.3 mm で白色。

2. 分布

国外ではダフリア、アルタイ、サハリン、北クリール、中国、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

荒れ地や海辺の砂地。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査時では、生育範囲は増加したが個体数は減少していた。今回は調査不足で確認できなかった

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の減少 (14) と他の海浜植物との競合 (56) が減少の主要因である。

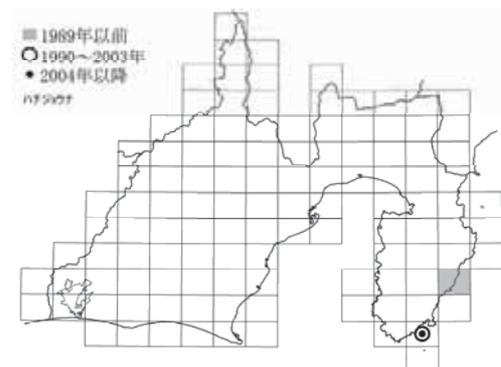
6. 保護対策

生育地の保全と競合する植物の除去が必要である

(湯浅保雄)



下田市 2004年9月11日 内藤宇佐彦



クサノオウバノギク *Crepidiastrum chelidoniifolium* (Makino) J. H. Pak et Kawano

(=クサノオウバノヤクシソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~45 cm。茎葉は長さ4~11 cm、幅1~5 cmで、質は薄く、羽状に全裂する。花期は8~11月。頭花には5個の小花がつく。花被は黄色。瘦果は紡錘形で長さ3.5~4 mm、先は0.5 mmほどの嘴となる。冠毛は白色。

2. 分布

国外では中国東北部、朝鮮半島に、国内では本州(栃木県、静岡県、三重県、奈良県)、四国に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

山地の岩上や岩の割れ目に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)や管理放棄(53)による生育環境の変化。

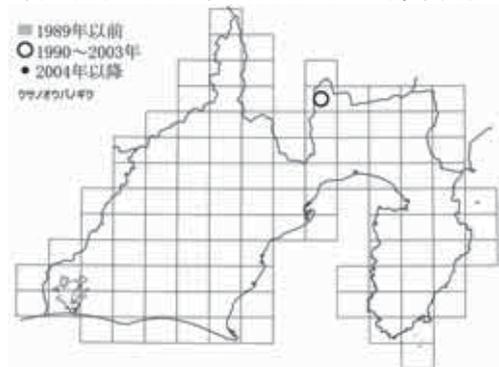
6. 保護対策

生育地においては最適な生育環境を維持すること。

(湯浅保雄)



富士宮市 2010年10月17日 内藤宇佐彦



スルガヒョウタンボク *Lonicera alpigena* L. subsp. *glehnii* (F. Schmidt) H. Hara var. *viridissima* (Nakai) Nakai ex H. Hara

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2 mほど。枝には2または4個の稜がある。葉は長楕円形で長さ6~14 cm、幅1.5~4 cm。縁毛以外は毛が少ない。花期は6月。花冠は褐紅色で長さ約11 mm。液果は球形で2個が半ば以上合着して紅色に熟す。

2. 分布

日本固有変種で、本州(長野県、山梨県、静岡県)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の林内や林縁。

4. 生育状況

産地は限られていて、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の変化(54)が減少の主要因であるが、シカによる食害(52-1)も脅威である。

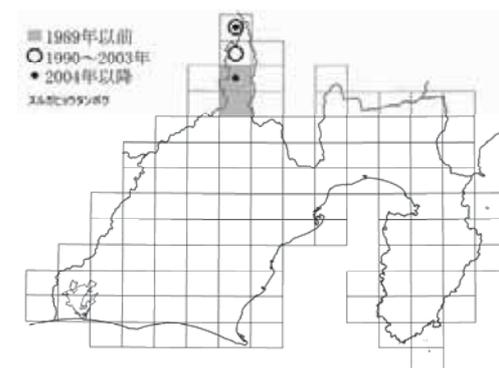
6. 保護対策

林内や林縁に多く生育するので、登山路の整備では注意すること。

(湯浅保雄)



静岡市 2000年7月21日 加藤 徹



チシマヒョウタンボク *Lonicera chamissoi* Bunge

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小低木。高さ1 m。枝は四角で中実。葉は楕円形で長さ2~5 cm、葉柄は短く、無毛で対生する。側脈は4~7対あり裏面に隆起する。花期は7月。花柄は長さ5~12 mm。花は濃紅紫色で、子房が癒着した2花をつける。花冠は2唇形で長さ8~12 mm。上唇は長さ6~7 mmで4裂する。液果は2個が合着して紅熟する。近縁種のスルガヒョウタンボク(エゾヒョウタンボク)は花が緑黄褐色から褐紅色である。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、カムチャツカ、アムール、オホーツク)に、国内では本州(中部以北)、北海道に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の日当たりがよく、岩礫が多いやや湿った凹地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスで最も北の地域に局限している。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)と登山者による踏圧(51)が主要因である。

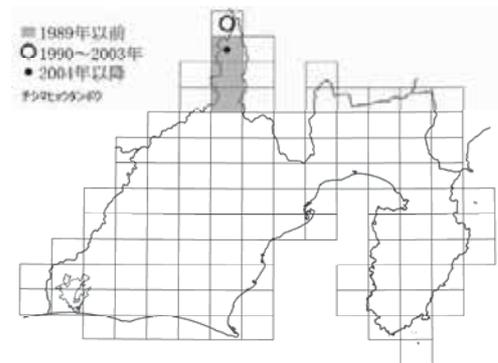
6. 保護対策

登山道を指定して、踏圧による影響を軽減する。

(宮崎一夫)



静岡市 2015年8月2日 加藤 徹



ニッコウヒョウタンボク *Lonicera mochidzukiana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1.5 mに達する。若枝は四角で無毛。葉は卵形から披針形で先は短く尖る。長さ3~10 cm。幅1.5~6 cm。花期は5~6月。5~20 mmの花柄の先に2花をつける。花冠は唇形で長さ1 cm、白色で後に汚黄色を帯びる。液果は球形で長さ6~8 mm。7~8月に赤く熟す。変種のヤマヒョウタンボクは県西部の蛇紋岩地帯に分布し、葉はより小さく先があまり尖らない。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方、中部地方、近畿地方)に分布する。県内では中部(北部地域)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜高山帯の樹林内及び林縁。

4. 生育状況

南アルプスの山麓に生育しているが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による生育環境の変化が主要因である。近年はシカによる食害(52-1)が脅威である。

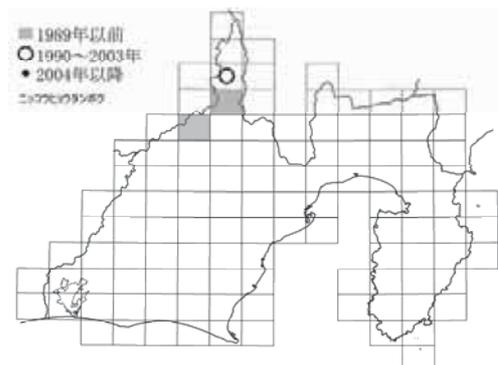
6. 保護対策

生育が確認されたら、その森林を伐採しないこと。林縁にも生育しているので登山路整備では注意が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 1992年6月21日 加藤 徹



ソナレマツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq. var. *littoralis* (Nakai) T. Ohba

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更コード 8 スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。マツムシソウの変種で、丈が低く高さ10~25 cmである。葉は革質でマツムシソウより厚い。花期は8~12月。

従来、マツムシソウの品種として扱われていたが須山他(2008)によって変種とされた。アシタカマツムシソウも同一の分類群とされている。最近では白鳥ほか(2017)によって、ソナレマツムシソウとアシタカマツムシソウは同一のものともみなすことはできないとの見解がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方、静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸や山地の開けた草地や礫地に生育する。

4. 生育状況

下田市に生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の草地開発(16)や他の草本類の繁茂(54)で生育場所が減少している。園芸採取(54)も脅威である。

6. 保護対策

生育場所の保護と植生の遷移抑制のための維持管理が必要である。園芸採取を防止するため産地情報の管理も必要である。(内藤宇佐彦)



下田市 2014年8月30日 内藤宇佐彦



ミシマサイコ *Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。茎は上部で多数分岐する。葉は長さ4~15 cm、質硬く、平行脈があり、細長く白緑色。根出葉は下方がしだいに細くなり柄にうつり、茎葉は無柄、葉先は尖る。花期は8~10月。黄色の花をつける。

三島のある薬種問屋から、解熱剤として大量に採取、出荷されていた。和名は集散地の三島に由来する。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州、対馬に分布する。県内では、伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯、暖帯の日当たりのよい、やや乾いた草地に生育する。

4. 生育状況

各地に点在する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

薬草として大量に採取されていた(41)。草原の減少(16)、植生遷移(54)も影響している。

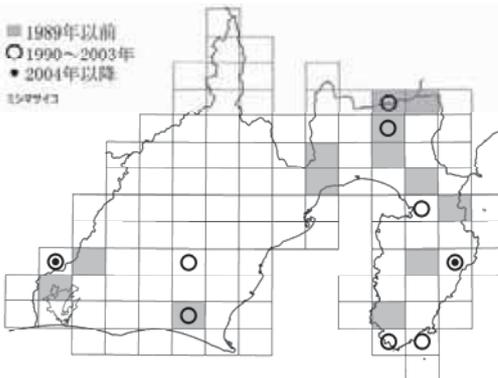
6. 保護対策

自生地の定期的な草刈りが必要である。薬草としての採取・出荷を禁止すべきである。

(西口紀雄)



浜松市 2013年10月6日 宮崎一夫



ホソバハナウド *Heracleum lanatum* Michx. subsp. *akasimontanum* (Koidz.) Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類 (CR)]

1. 種の解説

越年草～多年草。茎の高さ 60～100 cm。葉は羽状複葉で小葉は 5 個。小葉はさらに深く分裂する。裂片は披針形で先は鋭く尖る。花期は 7～8 月。散形花序に多数の白色の花をつける。花弁は 5 個、雄蕊 5 本、花序周辺の花は他より大きな花弁をつける。大きな花弁は深く 2 つに分かれる。果実は扁平で大きく、上部に 4 本の線状模様がある。

2. 分布

日本固有亜種で、本州（山梨県、長野県、静岡県）に分布する。県内では中部（南アルプス一帯）に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の草地や林縁。

4. 生育状況

広く生育しているが、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

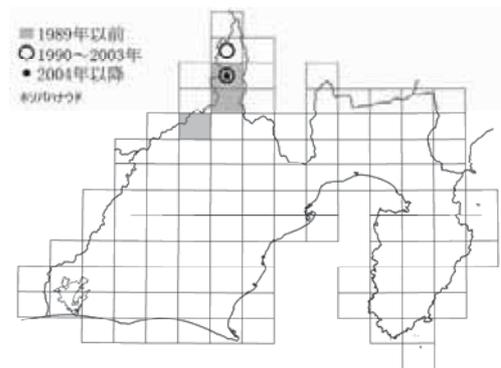
植生遷移 (54) が減少の主要因である。近年はシカによる食害 (52-1) が脅威である。

6. 保護対策

シカによる食害を防ぐこと。



静岡市 2015年8月23日 湯浅保雄



(湯浅保雄)